

松山市埋蔵文化財調査年報 VI

平成 5 年度

1994

松山市教育委員会
財松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 VI

平成 5 年度

1994

松山市教育委員会
（財）松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



卷頭図版 1 磨製石劍（弥生時代、上野遺跡）



卷頭図版 2 祭祀址（古墳時代後期、辻町遺跡 2 次調査地）



卷頭図版3 北側調査地全景（弥生・古墳時代、若草町遺跡3次調査地）



卷頭図版4 集落跡（古墳～古代・中世、北久米淨蓮寺遺跡 3次調査地）

序

松山市には数多くの貴重な埋蔵文化財があり、松山市の発展に伴う開発事業は、民間・公共も併せて年々増加の傾向にあります。それら諸開発によってやむを得ずとりこわされる遺跡については、恒久的に記録保存するように事前の発掘調査に努めております。

平成5年度の調査では、弥生時代から江戸時代にわたる各期の遺構・遺物が調査されており、松山大学構内遺跡や北久米浄蓮寺遺跡においては弥生時代から古墳時代に至る集落址、若草町遺跡では弥生・古墳時代の周溝墓群や住居址、辻町遺跡では古墳時代後期の祭祀址、久米高畠遺跡では「久米評衡」と関連する方形区画の柵列や建物群が調査され、今までの調査成果に補完・充足する資料を得ました。また、太山寺経田遺跡では古墳時代中期の住居址、上野遺跡では中世後半の水田跡や江戸前期の土坑墓群が調査され、まだ未解明な地域での新しい貴重な資料を得ることができました。

この報告書は、平成5年度の発掘調査の概要のみならず、市民に対する啓蒙普及事業の取り組みについても掲載をしていますが、埋蔵文化財に対するより一層の理解とともに文化財保護の一助となれば幸いと存じます。

最後に、調査にあたりましては多大のご協力とご理解を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成6年9月30日

財団法人 松山市生涯学習振興財団
理事長 田 中 誠 一

例　　言

1. 本書は、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが平成5年4月1日から平成6年3月31日までに実施した主な発掘調査の概要を収録し、また、松山市考古館事業を含めた啓蒙普及事業等をまとめた年次報告である。
2. 確認調査及び本格調査については、本書末尾の一覧表・付図にまとめた。
3. 写真は、遺物写真及び一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他の写真を各調査担当者が撮影した。
4. 各調査の報告は、調査担当者が執筆することを原則とした。なお、編集及び調整は栗田正芳が行った。
5. 遺構のうち表示記号で示したものは、以下のとおりである。
S A : 棚列, S B : 建物・住居, S K : 土坑, S D : 溝, S R : 自然流路,
S P : 柱穴, S X : 性格不明, S E : 井戸
6. 調査組織は、次のとおりである。

*調査・刊行主体(平成6年9月30日現在)

松山市教育委員会 教育長 池田 尚郷

生涯教育部 部長 渡辺 和彦

次長 三好 俊彦・渡部 泰輔

文化教育課 課長 松平 泰定

財松山市生涯学習振興財団 理事長 田中 誠一

事務局長 一色 正士

埋蔵文化財センター 所長 河口 雄三

次長 田所 延行

調査係長 田城 武志

調査主任 栗田 正芳 (文化教育課職員)

調査員 栗田茂敏・梅木謙一・相原浩二・宮内慎一・

高尾和良・河野史知・山本健一・水本完児・

武正良浩・橋本雄一・相原秀仁・加島次郎・

池田 学・松村 潤・大森一成・小笠原善治・

大西朋子

松山市考古館 館長 渡部 泰

学芸係長 西尾 幸則

学芸員 山之内志郎

7. 整理作業等の協力者は、次のとおりである。(敬称略)

鎌田謙二・志賀夏行・田丸竜馬・波多野恭久・日田忠幸・向井大作・八木幸徳・山邊進也・水口あおい・岡根なおみ・新山寿美子・石丸由利子・松下郁子・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・高尾久子・宮田里美・上野山志保・岡市美紀・関正子・多知川富美子・萩野ちよみ・矢野久子・吉井信枝・室谷美也子・石井美鈴・山内七重・徳田弘子・西川千秋・松本美代子・渡部英子・青野茂子・森田利恵・松本美知子・黒田令子・上西真弓・中村紫・岡本邦栄・生鷹千代・山下満佐子・平岡直美・松山桂子・三木和代・渡部美美・大西陽子・兵頭千恵・好光明日香 ほか

8. ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次のとおりである。(敬称略)

工業普通(奈良国立文化財研究所)／上原真人(同研究所)／松井章(同研究所)／田辺昭三(京都造形芸術大学教授)／内田俊秀(同助教授)／高妻洋成(同講師)／石野博信(徳島文理大学教授)／小笠原好彦(滋賀大学教授)／下條信行(愛媛大学教授)／松原弘宣(同教授)／新納泉(岡山大学助教授)／宮本一夫(九州大学助教授)／平井幸弘(愛媛大学助教授)／田崎博之(同助教授)／村上恭通(同助教授) ほか

9. ご指導・ご協力をいただいた機関は、次のとおりである。(敬称略)

奈良国立文化財研究所／古環境研究所／勧業媛県埋蔵文化財調査センター／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／奈良県立橿原考古学研究所 ほか

本文目次

松山市埋蔵文化財調査概要	
太山寺経田遺跡	1
古照遺跡—10次調査地—	5
辻町遺跡—2次調査地—	9
若草町遺跡—3次調査地—	13
松山大学構内遺跡—3次調査地—	17
樽味四反地遺跡—3次調査地—	21
樽味四反地遺跡—4次調査地—	25
桑原田中遺跡—2次調査地—	29
北久米淨蓮寺遺跡—3次調査地—	33
北久米淨蓮寺遺跡—4次調査地—	39
久米高畠遺跡—22次調査地—	43
来住庵寺—22次調査地—	51
開遺跡—2次調査地—	57
上苅屋遺跡—2次調査地—	63
上野遺跡	67
上野遺跡—2次調査地—	71
松山市埋蔵文化財調査関係資料	
平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧	75
平成5年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧	81
出土遺物整理事業・報告書作成事業	83
平成5年度 啓蒙普及事業	86
1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 広報・出版活動 4. 収集・保管活動	
5. 施設の利用 6. 資料の貸出 7. 職員研修・会議など	

挿図・写真目次

- 卷頭図版 1 磨製石剣（弥生時代、上野遺跡）
- 卷頭図版 2 祭祀址（古墳時代後期、辻町遺跡 2 次調査地）
- 卷頭図版 3 北側調査地全景（弥生・古墳時代、若草町遺跡 3 次調査地）
- 卷頭図版 4 集落跡（古墳～古代・中世、北久米淨蓮寺遺跡 3 次調査地）

◆太山寺経田遺跡

- 図 1 調査地位置図／図 2 調査地測量図／図 3 S B 1 測量図／図 4 S B 1 出土遺物実測図
- 写真 1 調査地全景（東より）／写真 2 S B 1 遺物出土状況（東より）

◆古照遺跡—10次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 10次調査地位置図／図 3 基本的土層図／図 4 遺構平面図／図 5 出土遺物実測図
- 写真 1 遺構検出状況（北西より）／写真 2 遺物出土状況（北より）

◆辻町遺跡—2次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 基本層序図／図 3 古墳時代遺構配置図（概略図）／図 4 S X 1 出土遺物実測図／図 5 S B 2 出上遺物実測図
- 写真 1 S X 1 検出状況（東より）／写真 2 S B 2 遺物出土状況（西より）

◆若草町遺跡—3次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 遺構配置図／図 3 出土遺物実測図
- 写真 1 南側調査地全景（北東より）／写真 2 北側調査地全景（西より）

◆松山大学構内遺跡—3次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 基本層位図／図 3 遺構配置図
- 写真 1 北半部完掘状況（南より）／写真 2 南半部完掘状況（南より）／写真 3 S R 1 遺物出土状況（南東より）／写真 4 S B 17（東より）

◆梅味四反地遺跡—3次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 調査地測量図／図 3 基本層位図／図 4 遺構配置図
- 写真 1 完掘状況（西より）／写真 2 S K 2 遺物出土状況（東より）

◆梅味四反地遺跡—4次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 遺構配置図／図 3 出土遺物実測図
- 写真 1 完掘状況（北より）／写真 2 S B 1 内 S K 24 遺物出土状況（北より）

◆桑原田中遺跡—2次調査地—

- 図 1 調査地位置図／図 2 遺構配置図／図 3 S D 7 上層出土遺物実測図

写真1 調査地全景（北東より）／写真2 SD7遺物出土状況（北西より）

◆北久米淨蓮寺遺跡—3次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 SB9測量図／図4 出土遺物実測図

写真1 SB9出土初期須恵器／写真2 調査地全景（西より）／写真3 SB9付近完掘状況（南東より）

◆北久米淨蓮寺遺跡—4次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 SB3・4測量図／図4 出土遺物実測図

写真1 南半分遺構検出状況（西より）

◆久米高畠遺跡—22次調査地—

図1 調査地位置図／図2 基本層位図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図

写真1 棚列及び掘立柱建物跡群完掘状況（南西より）／写真2 遺構検出状況（南より）／

写真3 SB2柱穴完掘状況（西より）

◆来住庵寺—22次調査地—

図1 調査地位置図／図2 調査区位置図／図3 A地区遺構配置図／図4 B地区遺構配置図／図5 SX1出土遺物実測図

写真1 A地区完掘状況（北より）／写真2 B地区完掘状況（東より）

◆開遺跡—2次調査地—

図1 調査地位置図／図2 南壁土層図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図

写真1 遺構検出状況（北西より）／写真2 遺構完掘状況及び皿ヶ峯遠望（北西より）

◆上刈屋遺跡—2次調査地—

図1 調査地位置図／図2 基本層位図／図3 遺構配置図／図4 出土遺物実測図

写真1 完掘状況（北より）／写真2 北壁土層（南西より）

◆上野遺跡

図1 調査地位置図／図2 水田出土遺物実測図

写真1 1区の水田（北より）／写真2 4区の水田（北より）

◆上野遺跡—2次調査地—

図1 調査地位置図／図2 遺構配置図／図3 SK25平・断面図／図4 SK25出土遺物実測図

写真1 調査地全景（北西より）／写真2 SK25遺物出土状況（北より）

●啓蒙普及事業

写真1 環状乳五神五獸鏡（天山神社北古墳）／写真2 発掘報展「むかし・昔のまつやまを掘る」／写真3 特別展記念講演会／写真4 夏休み体験学習セミナー「土器を作ろ

う！土器を描こう！」／写真5　遺跡めぐり「むかし・昔のえひめを歩く」（今治市阿方貝塚にて）／写真6　来住庵寺22次調査現地説明会／写真7　東本遺跡4次調査現地説明会／写真8　方格規矩鏡（径約11.1cm）／写真9　捩文鏡（径約7.0cm）／写真10　五鈴鏡（径約9.4cm）

タイサン ジキヨウデン 太山寺経田遺跡

所 在 地 松山市太山寺町1459外

期 間 平成5年10月4日～

同年11月9日

面 積 800m²

担 当 栗田（正）・小笠原



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市農林土木課による農道新設に伴う事前調査である。本調査地は、松山平野北西部太山寺山塊の東側山腹、標高12m～29mの緩斜面上に位置し、これら山塊上には勝岡、太山寺、片廻、高月山、船ヶ谷向山等の古墳群が多く所在する地域である。

本遺跡周辺の丘陵尾根部上には円墳6基の存在を踏査によって確認している。特に本調査地に隣接する古墳では、南側に1基、東側の素鷦神社裏には露呈する大型の石材を使用した横穴式石室1基が所在する。また、東の低地には縄文晩期の大溝遺跡や船ヶ谷遺跡などが所在する地域である。

遺構・遺物 調査地は調査工程の関係によりA～Dの4区に分けてを行い、A区では、丘陵斜面に沿って一部痕跡を残しながら石列を検出し、裾部に於て南北方向に2条の溝状遺構を確認した。このS D 1からは土師器壺が出土している。B区では、方形の住居址状遺構を確認した。遺構は2条の溝に切られ北半は削平を受け消失しているが、床面は地山を削り平坦にするがやや段を持ち、北傾する状況を呈する。遺構中央やや東には小礫が集中するが施設的性格は不明である。また、それら小礫の周囲から土師器壺、高坏等が出土している。その他、調査区北斜面裾部において石列が検出され、遺構内より陶磁器片が出土している。この事からも他の同様な石列もほぼ同時期と考えられるが、D区検出の石列とは構造的に性格は異なると考えられる。C区では、岩盤を掘り込んで形成されている状況の溝状遺構1条を確認したが、遺物の出土はない。D区では、3条の列石遺構を検出した。これらは、ハの字状に延びる2条と地形に沿って南北に延びる1条で、構造的には逆台形状の掘り方内に小礫を左右に配し、内部にわずかな空間を作る様にその上部に横長の礫を置き、再度上部礫の周囲に小礫を配する構造を基本としている。また、これら遺構に関連する遺物の出土はみられない。

小結 本調査では、斜面に立地する古墳時代における生活址の一部や、また中世以降の石組による排水施設や列石による区画施設等が検出され、周辺における遺跡と合わせ、当山塊の古墳群の成立時から中近世にかけての様相を解明する一資料となる。

太山寺経田遺跡

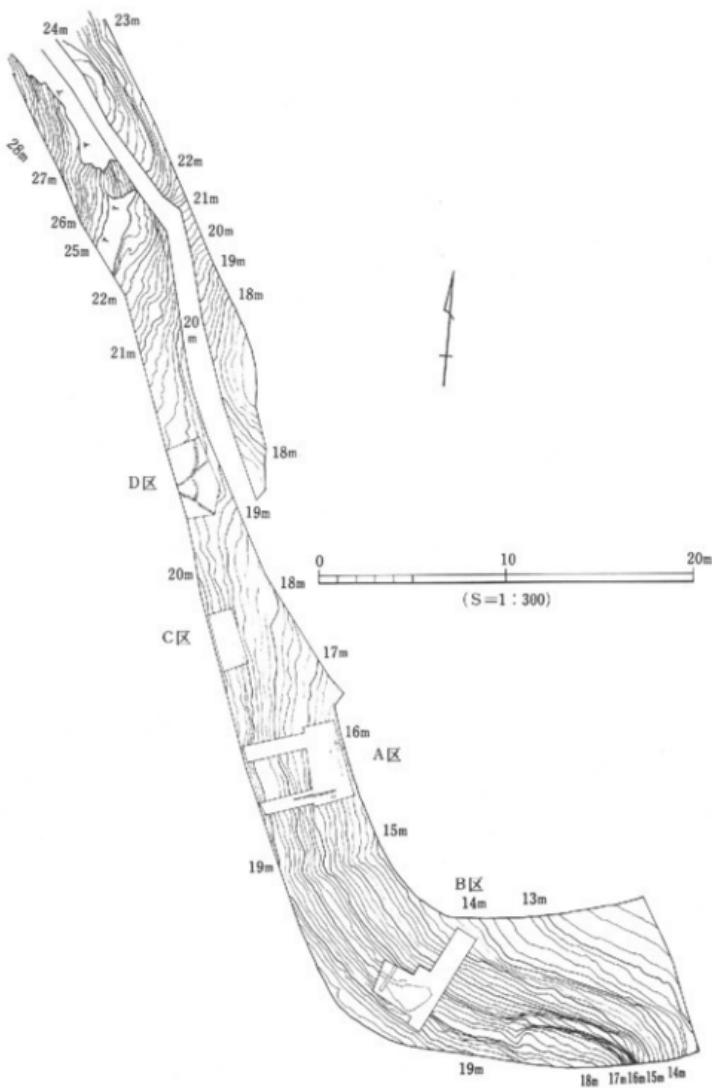


図2 調査地測量図

太山寺経由遺跡

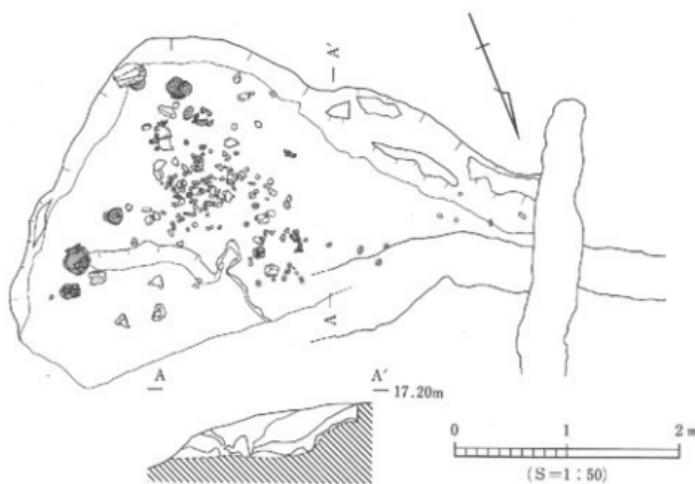


図3 SB1測量図

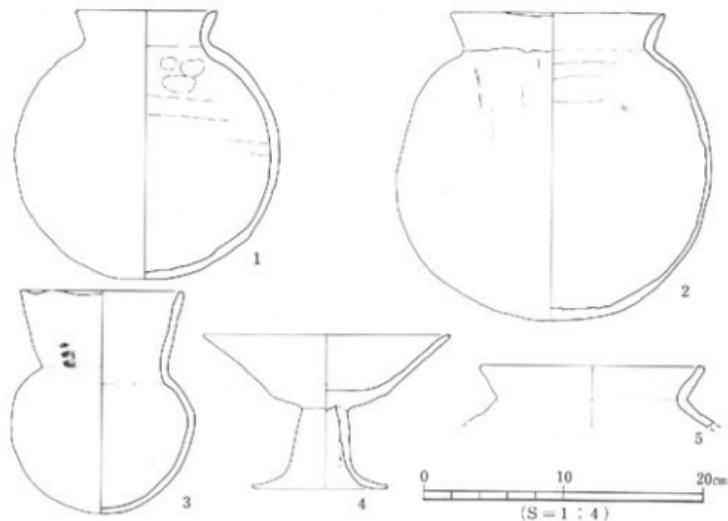


図4 SB1出土遺物実測図

太山寺経田遺跡



写真1 調査地全景（東より）

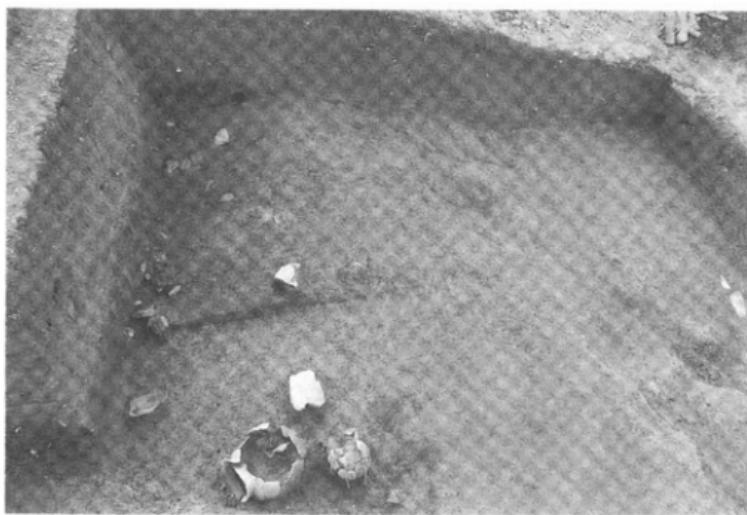


写真2 SB1 遺物出土状況（東より）

コ デラ 古照遺跡10次調査地

所 在 地 松山市南江戸4丁目1-1

期 間 平成5年4月1日～
同年5月29日

面 積 345m²

担 当 栗田（正）・小笠原



図1 調査地位置図

経過 古照遺跡は、古墳時代前期（4世紀）の農業灌漑用井堰3基が発見された遺跡として有名である。井堰が発見された松山市下水道中央浄化センター（旧、松山市下水処理場）内での発掘調査は、平成元年度から毎年、下水処理施設工事に伴う事前の緊急調査が行われ、井堰を取り巻く旧地形・古環境等について少なからず明らかとなりつつある。

本調査地は、平成4年度に行われた9次調査地の東隣接地で、地下連絡通路工事に伴う事前の発掘調査であり、南北幅約100m、東西幅約5mと細長く、標高約13.10m内外に位置している。

遺構・遺物 本調査地の基本土層の中で、第V・VII層は江戸時代の水田跡、第IX層は13世紀代の水田跡、第XIV層は古墳時代中期前半の水田跡（写真1）で、いずれの水田跡も洪水等

によって埋没している。これら水田遺構の他に検出された遺構は、溝（SD）1条がある。

SD 1は、調査地のやや北側で検出された東西方向の溝で、最大幅約6m、深さ40～80cmを測る。埋土は第XII層を主とし、灰白色粗砂や中

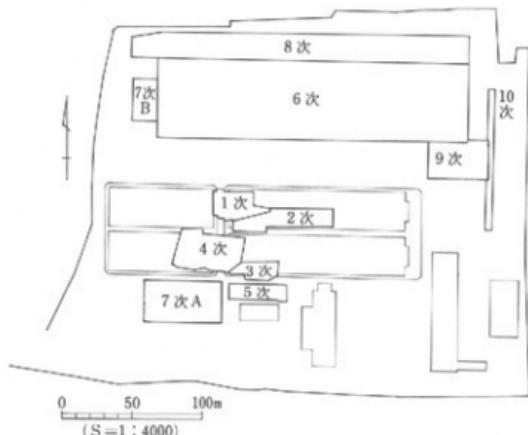


図2 10次調査地位置図

古照遺跡 10 次調査地

縛による互層堆積がみられ、その堆積中に牛の足跡が多数検出される。この溝からは、黒色土器・土師器・竹製編み籠・桃実等が出土している。

第 XIV 層直上において、土師器の壺・小型壺等が整然と並べられた状態で出土している（写真 2）。

小結 本調査地においては、古墳時代から現代に至るまでずっと生産行為が営まれていることが解った。特に第 XIV 層は、8・9 次調査地においても確認されている土層で、本調査によって水田跡であることが判明した。

第 XIV 層から出土している土師器群は、9 次調査地で出土した河川に伴う祭祀土器群の東端に位置しており、祭祀行為の一端を窺い知れる資料を得た。

また、SD 1 から出土している土器は、11 世紀初頭に位置付けられ、古代末の土器研究の資料として重要である。

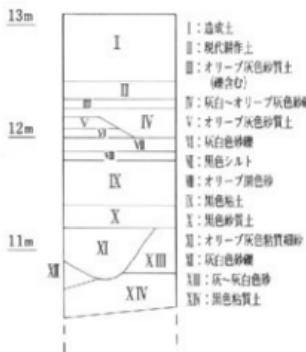


図 3 基本的土層図 (S=1/50)



図 4 遺構平面図

古照遺跡 10 次調査地

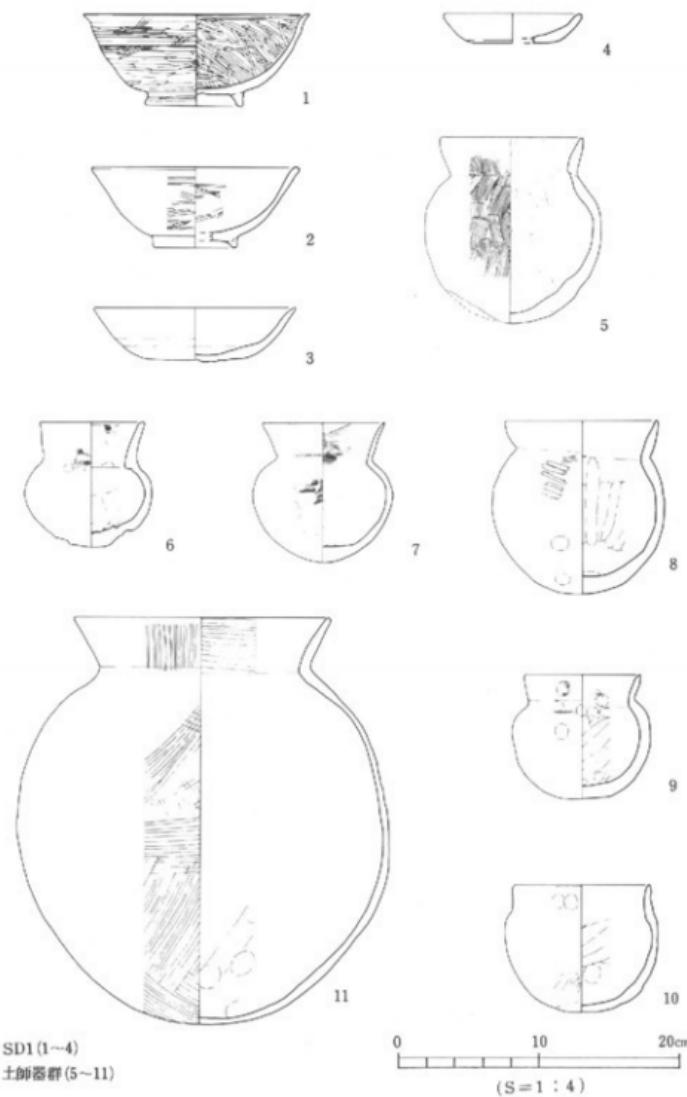


図 5 出土遺物実測図

古照遺跡 10次調査地



写真1 遺構検出状況（北西より）

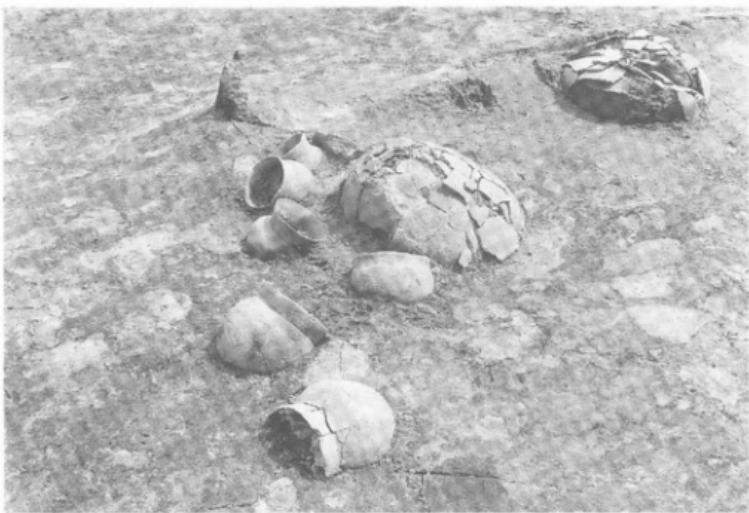


写真2 遺物出土状況（北より）

ツジマチ
辻町遺跡 2 次調査地

所 在 地 松山市南江戸 5 丁目729

・730

期 間 平成 5 年 4 月 12 日～

同年 8 月 6 日

面 積 2,223m²

担 当 相原（浩）・河野



図 1 調査地位置図

経過 本調査は、朝美遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。辻町遺跡 2 次調査地は、松山平野西部の標高12mに立地しており、西側200mには石手川の小支流である宮前川が西流している。周辺には、5世紀末～6世紀前半の祭祀遺構を検出した辻町遺跡 1 次調査地が北東約20mに隣接するのをはじめとして、調査地の西にそびえる大峰ヶ台丘陵部には前期古墳である朝日谷 2 号墳をはじめ、数多くの古墳の分布が知られるほか、頂上付近には弥生時代中期の集落址などが確認されている。また、南西500mには古墳時代前期の灌漑用の堰が見つかった古照遺跡がある。

遺構・遺物 基本層序は図 2 である。検出遺構は第 6 層上面において掘立柱建物 1 棟、木棺墓 1 基、井戸 1 基、土坑 8 基、柱穴 33 基、耕作痕跡の小溝など中世の遺構、第 9 層中位部から上面にかけて 5 世紀後半～6 世紀前半の祭祀遺構 (S X) 7 基、円形もしくは楕円形のプランをもつ焼土跡、溝、土坑などの遺構、第 11 層上面では竪穴住居址 3 棟 (S B 1、2、3)などを検出している。祭祀遺構は大きく分けると、溝状または不整形の掘り方を伴い土器が集中するもの (S X 1、2、3、7)、何ら掘り方を伴わず平面的に土器が集中するもの (S X 4、5、6) とに分けられるが、各遺構の出土遺物の状況・構成・規模等にも違いが見られる。出土遺物は祭祀遺構から各種の土師器・須恵器などの土器や炭化物・骨片、第 9 層中から勾玉 1 点、竪穴住居址 S B 1 のカマド内から土師器の甕・高壺 1 点、S B 2 のカマド内から土師器の甕が出土している。また、S B 1 からは須恵器の出土はなかったが S B 2 からは須恵器の甕が完形で 1 点出土している。S B 3 はコーナー部だけの検出で、遺物の出土はなかった。

小結 本調査では、3 面の遺構面を検出し、5 世紀後半～6 世紀前半の須恵器・土師器、13 世紀～14 世紀の瓦器・土師器等が出土した。注目される遺構・遺物として S X 1～S X 7 と竪穴住居址があげられる。S X 1～7 は辻町遺跡 1 次調査の S X 1 と同様に何らかの祭祀に関連すると考えられ、これらの遺構・遺物が周辺域に広がる様相があり注意を要するものである。S X 1～7 に先行すると思われる竪穴住居からの出土遺物は、S X 出土遺物と併せ松山平野の当該期の土器様相を考えるうえで重要な資料となるものであろう。

12, 10m



図2 基本層序図

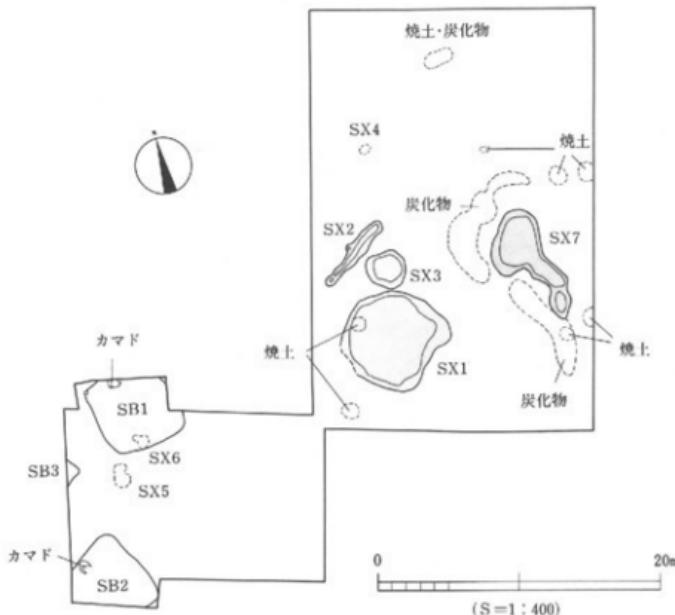


図3 古墳時代遺構配置図(概略図)

辻町遺跡 2 次調査地

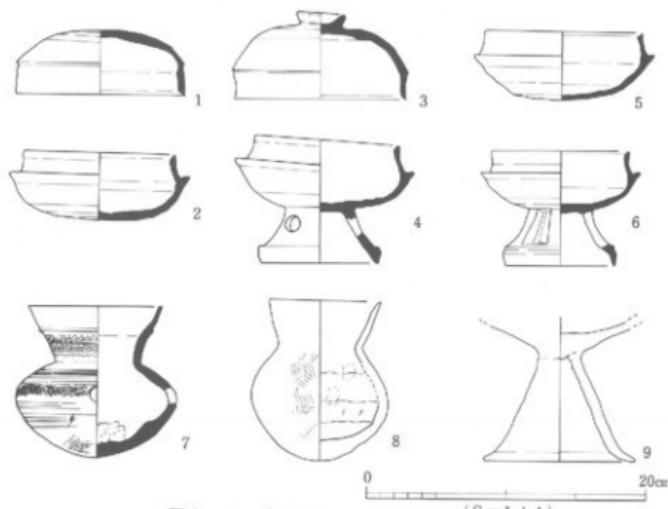


図4 SX1出土遺物実測図
(S=1:4)

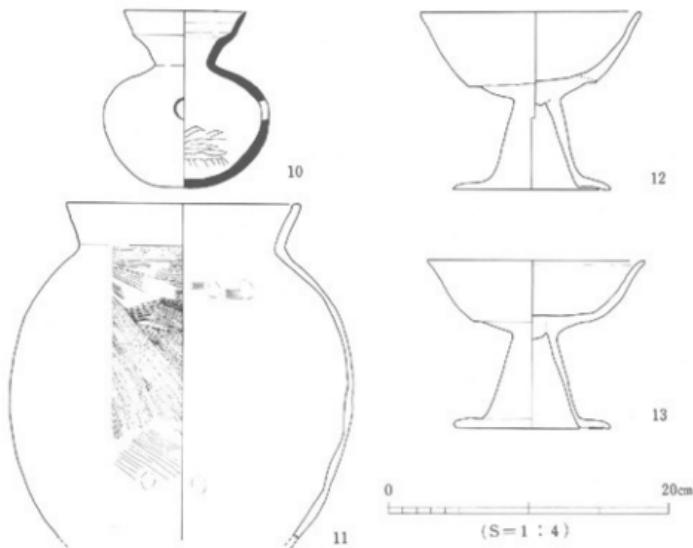


図5 SB2出土遺物実測図

辻町遺跡 2 次調査地



写真1 S X 1検出状況（東より）

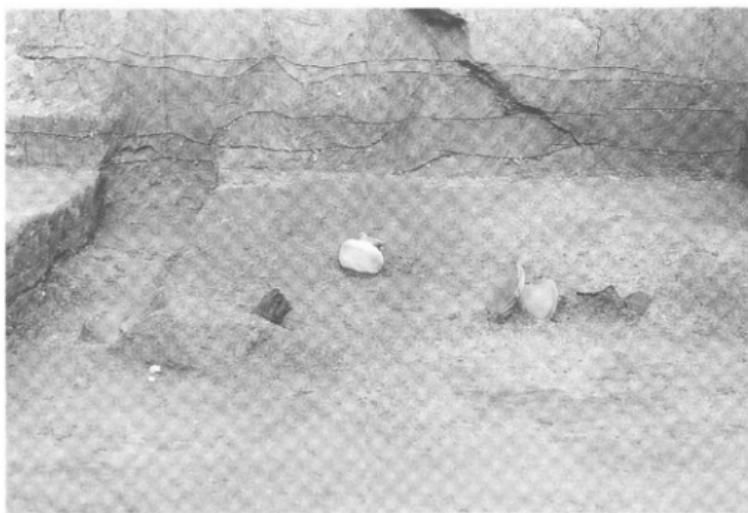


写真2 S B 2 遺物出土状況（西より）

ワカクサマチ 若草町遺跡 3次調査地

所在 地 松山市若草町8-2他
期 間 平成5年10月25日～
平成6年3月31日
面 積 2,217.7m²
担 当 相原(浩)・河野



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市児童福祉課による児童館及び福祉関係施設建設に伴う事前調査である。調査地は、松山平野のほぼ中央に所在する松山城の北西麓の標高23mに位置する。調査地東方には縄文時代後期から近世にわたり遺構・遺物の集中する道後城北遺跡群、南方約130mのカキツバタ遺跡では弥生時代後期後半の壺棺が出土している。北に隣接する若草町遺跡1次調査地では前漢鏡（重圓日光鏡）や、弥生時代後期の周溝墓・竪穴式住居址などが検出されている。南西約150mに愛媛県埋蔵文化財センターが調査を行った若草町遺跡2次調査地があり、弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居址や大溝より、多量の土器が出土する。また、近世の城郭関連施設が現存する城山の独立丘陵上には古墳群が分布しており、調査地は江戸時代の絵図によれば、松山藩の家臣団屋敷地内にあたる。

遺構・遺物 調査区の層序は調査区全域にわたり近世遺構の擾乱を受けているため、基本層序が不明瞭であるが、大きく分けると第I層表土、第II層暗灰褐色砂質土、第III層黒褐色砂質土、第IV層黄色砂（地山）と、1次調査地の土層とのつながりが窺えられる。旧地形は南東から西壁へ向け緩斜面をなしている。検出した遺構は弥生時代から近世を含め、円形周溝墓1基、土坑墓1基、竪穴住居址1棟、柱穴343基、土坑126基、溝14条（うち周溝状8条）、井戸跡2基、石組の排水溝を検出した。遺物は第II・III層よりの出土であり、弥生土器（中期～後期）、土師器・須恵器（古墳時代）、石庖丁・石鍬、中世～近世の瓦、陶磁器（碗・皿・擂鉢）、土師質鍋、土師皿、焼壺塗、硯、土人形、古錢が出土している。

このうち注目される遺構としては円形周溝墓が挙げられる。主体部は縦2.3m×横1.0mの削丸長方形の墓坑で、木質の遺存は認められなかつたが、平・断面の土層観察により木棺痕跡が認められる。出土遺物は土器の小片が数点しかなく時期決定に有効な遺物は出土していない。この主体部を中心として円形周溝SD9とSD7が巡っている。SD9は外径約7.5m×幅0.4～0.6m×深さ0.4mを測り、南東部では現代の擾乱坑に切られている。出土遺物は土器片数点で時期決定に有効な遺物の出土はない。SD7は外径約20m×幅1.8～2.1m×深さ0.4～0.6mで主に弥生後期後半～終末にかけての土器の小片が出土しているが、SD7と

若草町遺跡 3 次調査地

方形周溝 S D 6 との切り合い部で古墳時代初頭の二重口縁壺 2 点と手堀り形土器 1 点が完形で出土している。尚、 S D 6 は断面観察により S D 7 に切られており、出土遺物も弥生中期後半の遺物が比較的多く出土している。この他、竪穴住居址 S B 1 は一部分の検出でもあるが方形を呈するものと思われ、コーナー部分にカマドを持っている。出土遺物はカマド内より土師器、須恵器が出土しており、時期は古墳時代後期である。

小結 今回の調査により、若草町 1 次調査地で検出された周溝群の広がりが当調査地に及ぶことが確認された。周溝墓を確認できたことは他の周溝の性格を考える上で有効な資料となり、当地域における墓制を考えるうえでも重要なものであるが周溝墓の平面形態、時期等問題を含んでおり、今後、整理検討を要するものである。



図 2 遺構配置図

若草町遺跡 3 次調査地

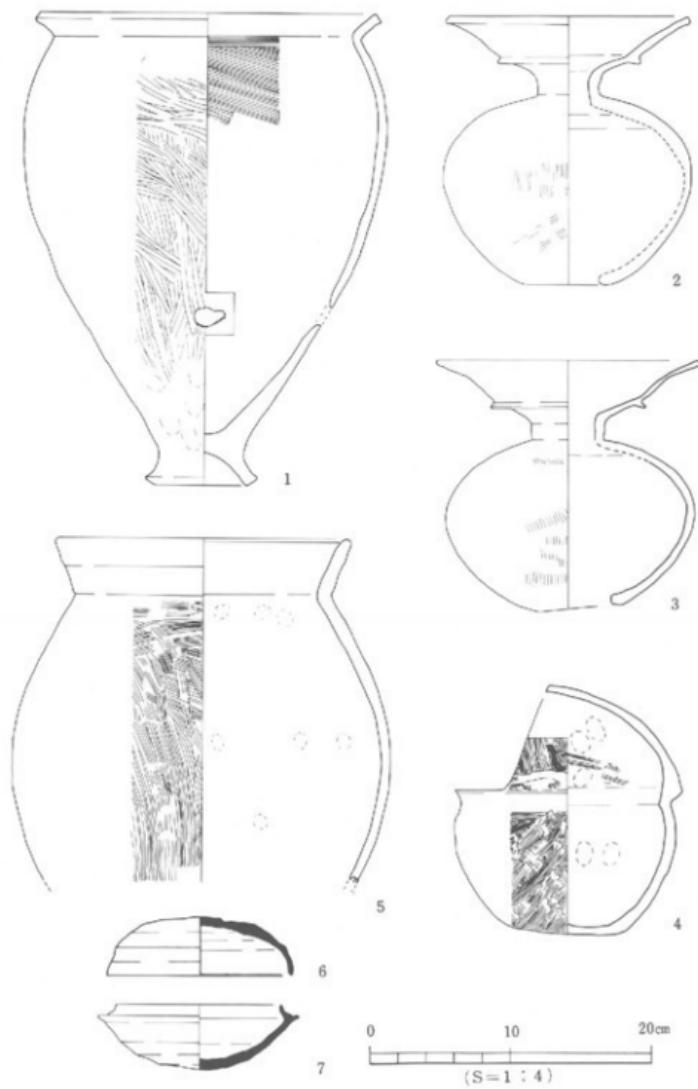


図 3 出土遺物実測図

若草町遺跡 3次調査地



写真1 南側調査地全景（北東より）

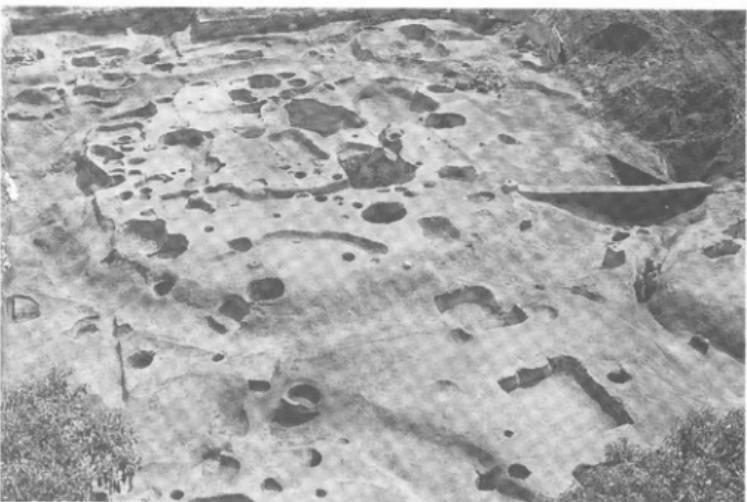


写真2 北側調査地全景（西より）

マツヤマダイガクコウナイ
松山大学構内遺跡 3次調査地

所在地 松山市文京町4番10号
期間 平成4年11月2日～
平成5年5月15日
面積 1,600m²
担当 梅木・宮内・高尾
武正・加島



図1 調査地位図

経過 松山大学構内遺跡がある松山市文京町は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「67樋又遺物包含地」内にあたり周知の遺跡として知られている。大学構内においても1987(昭和62)年11月に構内東北部の7号館建設の際に発掘調査が行われ、弥生時代と中世の遺物包含層を確認している(第1次調査地)。また、1989(平成元)年11月には構内北西部の8号館建設に伴い調査が実施され、弥生時代後期から古墳時代までの竪穴式住居址を含む多数の遺構と遺物を確認している(第2次調査地)。

遺構・遺物 本調査地の基本層序は図2に示すとおりである。第I・II層は近現代の造成工事による客土で地表下60～70cmまで開発が行われている。第III層以下が遺物包含層である。第III層灰褐色土は中世の土師器を包含する。第IV層暗灰褐色土は土師器・須恵器を包含し、第V・VI層は弥生土器・土師器を包含する。第VII層黄褐色土は繩文土器を包含する。

遺構は第IV層中及び第VII層上面での検出である(図3)。竪穴式住居址24棟(弥生・古墳)、掘立柱建物跡1棟(古墳時代後期)、土坑23基、溝20条、流路1条(弥生時代後期)、柱穴767基他である。このうち流路S R 1からは大量の弥生土器(分銅形土製品・ミニチュア土器・線刻画土器などを含む)と石庖丁・石鎌・石錐・紡錘車他が出土している。また古墳時代中期のS B10号住居址からは小型丸底壺をはじめとする土師器類が多数出土し住居址床面検出の柱穴からも高坏・甕・壺などの土器の出土がみられた。他にSK23号土坑からは6世紀後半の土師器・須恵器のほか獸骨とガラス玉

H. 25,300m

I	30～50cm
II	10～20cm
III	10～15cm
IV	20～40cm
V	10～40cm
VI	10～30cm
VII	

S=1/20

図2 基本層位図

松山大学構内遺跡 3 次調査地

が出土している。

小結 本調査では縄文時代後期から中世の遺構と遺物を確認した。弥生時代・古墳時代はもとより古代以降の生活関連遺構の検出は道後城北地区ではあまり例をみなかつただけに、今回の調査はこれらを補充させる好資料となるであろう。また流路 S R 1 出土の弥生土器は一括性の高い資料であり松山平野の弥生後期の土器編年を考えるうえで良好な追加資料となるものである。

なお、本調査の詳細は報告書にて行うものとする。

【文献】梅木謙一『松山大学構内遺跡—第2次調査』1991

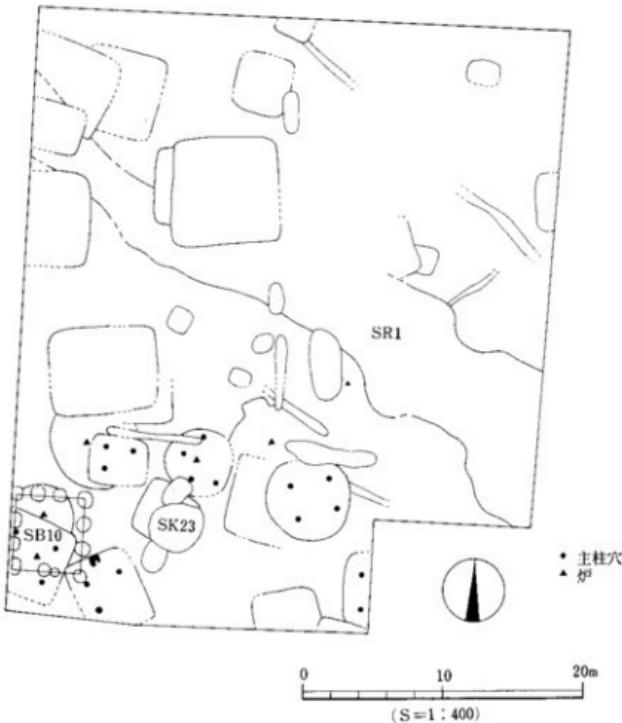


図 3 遺構配置図

松山大学構内遺跡 3次調査地

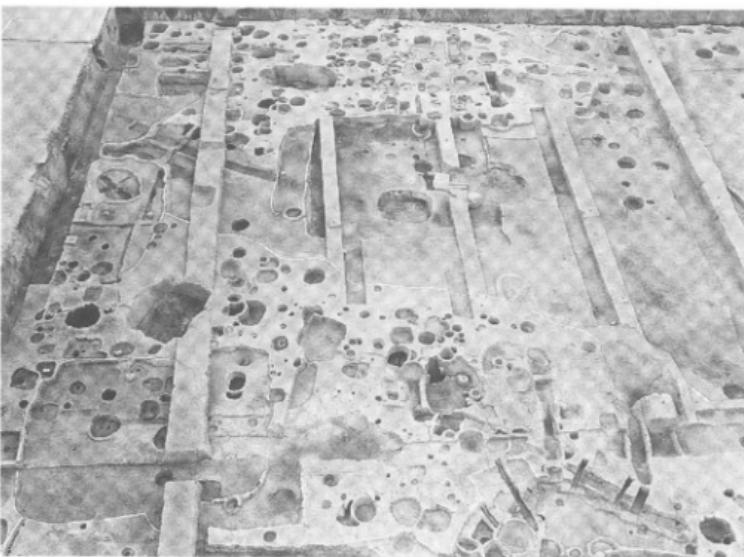


写真1 北半部発掘状況（南より）

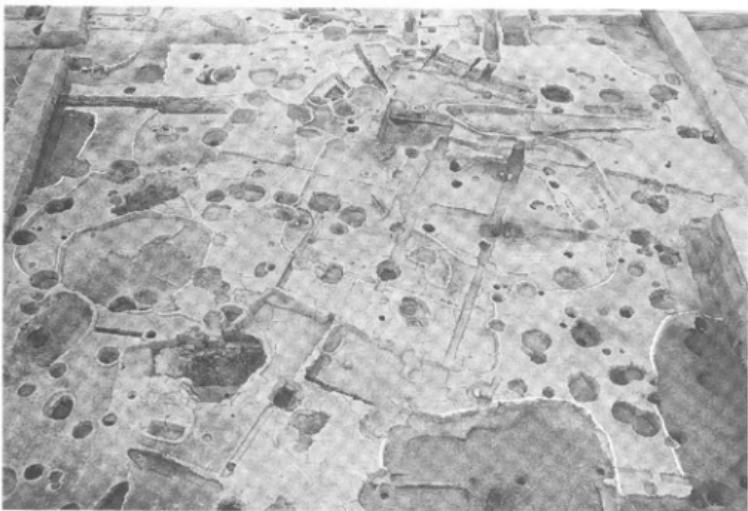


写真2 南半部発掘状況（南より）

松山大学構内遺跡 3 次調査地



写真3 SR1遺物出土状況（南東より）

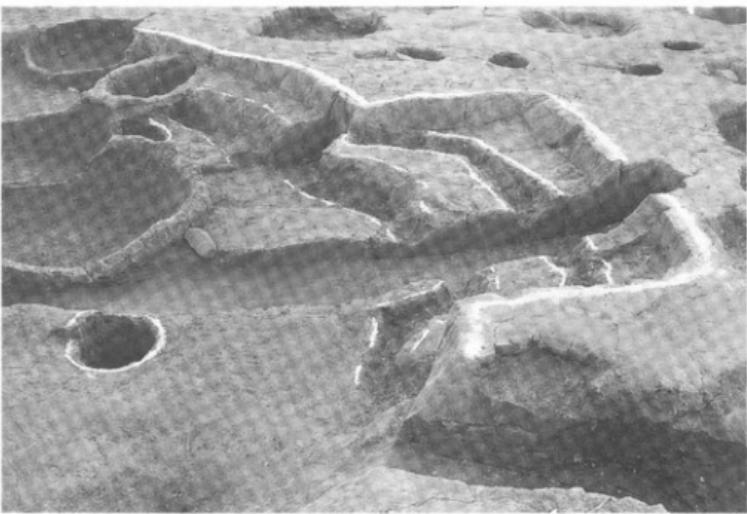


写真4 SB17（東より）

タルミシタンジ 樽味四反地遺跡 3次調査地

所在地 松山市樽味4丁目216

期間 平成4年11月1日～

同年11月30日

平成5年9月1日～

同年9月30日

面積 407.36m²

担当 梅木・宮内・武正・加島



図1 調査地位置図

経過 本調査は樽味遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は勝山(松山城)の南東、石手川によって形成された扇状地上に立地しており、標高は約40mを測る。同包含地内ではこれまでに数多くの調査が行われ弥生時代から中世に至る遺構と遺物の存在が近年明らかになりつつある。樽味遺跡(愛媛大学農学部構内)1次調査においては弥生時代前期の土坑や溝が、同2次調査では中世の掘立柱建物址や溝、水口、柵列等の集落関連遺構が検出されている。そのほか、調査地の北方に所在する樽味立派遺跡では弥生時代から古墳時代の集落関連遺構が検出され包含層中から「貨泉」が出土している。また、樽味高木遺跡3次調査では船を線刻した弥生時代後期の土器片が出土している。

遺構・遺物 今回の調査は平成4年度と5年度の2回に分けて実施された(図2参照)。調査地の基本層序は図3に示すとおりである。第III・IV層が遺物包含層であり第III層は古代から中世、第IV層は弥生時代から古墳時代までの遺物を包含する。第V層は無遺物層であり地山と呼ばれるものである。

遺構は主に第V層上面での検出であり、堅穴式住居址2棟(古墳時代)、掘立柱建物跡5棟(古墳～中世)、土坑状遺構9基(古墳～中世)、溝状遺構1条(中世)、柱穴397基(住居址内、掘立柱建物柱穴含む)他である(図4)。遺物は遺構及び包含層中の出土であり、土器類は弥生土器(中期後半～後期)、土師器(古墳～中世)、須恵器(古墳～中世)の他、分銅形土製品が1点出土している。石器類では緑色片岩製の柱状片刃石斧が1点出土している他、住居址内より勾玉が1点出土している。

小結 本調査において弥生時代から中世に至る遺構と遺物を確認することができた。弥生時代の遺構は検出されなかったが包含層中から分銅形土製品の出土があった。桑原・樽味地区においては初めての出土であり非常に興味深い資料である。このほか、古墳時代の堅穴式住居址、古代から中世に比定される掘立柱建物跡や土坑、溝など多くの遺構と遺物を検出した。これらの資料はこれまでの同地区的調査結果を裏付けるものである。

樽味四反地遺跡 3 次調査地

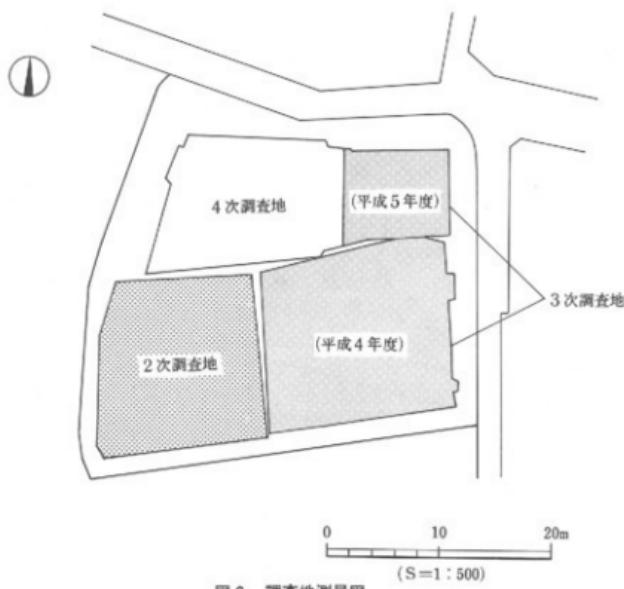


図2 調査地測量図

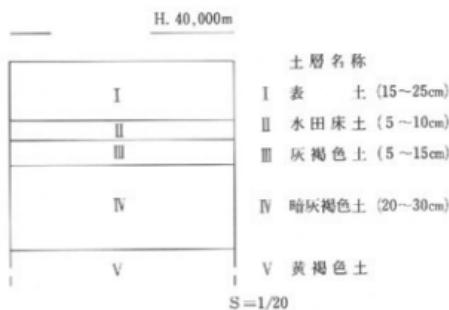


図3 基本層位図

博味四反地遺跡 3 次調査地

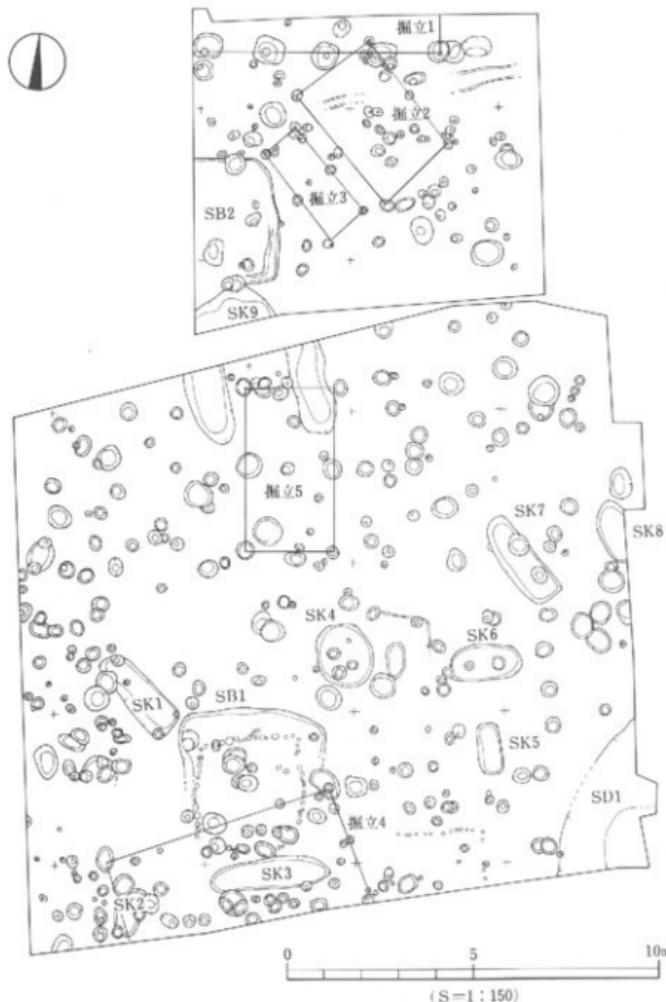


図4 遺構配置図

博味四反地遺跡 3 次調査地



写真1 完掘状況（西より）

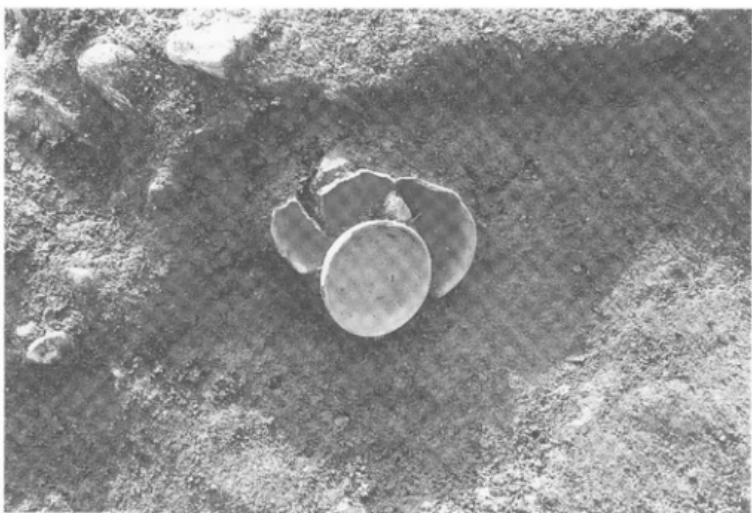


写真2 SK2 遺物出土状況（東より）

タルミシタンジ 樽味四反地遺跡 4次調査地

所在地 松山市樽味4丁目216
期間 平成5年7月1日～
同年8月31日
面積 229.43m²
担当 梅木・宮内・加島

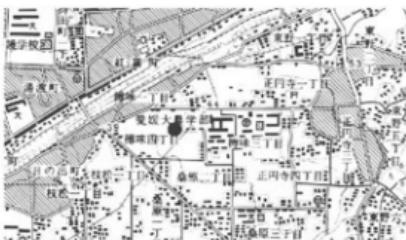


図1 調査位置図

経過 本調査は樽味遺物包含地内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は平成4年度に実施した樽味四反地遺跡2次調査地の北側部分、同3次調査地の西側部分にあたる(樽味四反地遺跡3次調査地 図2参照)。

遺構・遺物 本調査において検出した遺構は竪穴式住居址5棟(SB1:弥生、SB2~5:古墳)、掘立柱建物跡1棟(古墳)、土坑状遺構10基(古墳~中世)、溝状遺構4条(中世)、柱穴94基(住居址内、掘立柱建物柱穴含む)、性格不明遺構7基他である。遺物は遺構及び包含層からの出土である。包含層中からは弥生土器(中期末~後期)、土師器・須恵器(5~6世紀中心)のほか石製品では柱状片刃石斧、有溝石錘、管玉(碧玉製)などが出土している。以下、検出遺構を時期別に説明する。

弥生時代の遺構は竪穴式住居址(SB1)がある。平面形は隅丸方形もしくは長方形を呈し規模は東西4.2m、南北検出長3.4m、壁高10cmを測る。主柱穴は4本を検出したが検出状況から6本柱の可能性もある。遺物は住居址床面の貯蔵穴から大型と小型の鉢形土器、西壁付近の床面からは緑色片岩製の石器素材が出土している。貯蔵穴出土の鉢形土器の形態及び調整等から本住居址の廃棄・埋没時期は弥生時代後期末に比定される。

古墳時代の遺構は竪穴式住居址4棟(SB2~5)、掘立柱建物跡(掘立1)である。住居址の平面形はいずれも隅丸の方形あるいは長方形を呈する。規模は検出長4~5mを測る。出土遺物等からSB3・4は古墳時代前期、SB5は古墳時代中期、SB2は古墳時代後期に廃棄・埋没したものと考えられる。掘立柱建物跡は2次調査で検出された1号掘立柱建物跡の南東部分に該当する。建物を構成する柱穴のうち床面にて20cm大の石が散かれているものがあった。出土遺物・埋土等から古墳時代後期以降に造営されたものと考えられる。

古代末~中世の遺構は墓(SK1~5)、性格不明遺構(SX2)である。墓SK1は平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北1.2m、東西0.8m、深さ20cmを測る。床面から長さ15cm、幅10cm、厚さ5cmの石枕が出土し、石枕の周囲で高台付壙・玉・鐵器が出土している。また、墓SK5からは完形の土師皿1点と遺存状態の悪い歯が数点出土している。性格不明遺構S

樽味四反地遺跡 4 次調査地

X 2 からは16世紀に比定される完形の土師皿 7 点が出土している。

小結 本調査において弥生時代・古墳時代・古代末～中世の 3 期にわたる遺構と遺物を確認することができた。弥生時代は終末期の S B 1 号住居址が特筆すべき遺構である。当地を含めた周辺地域でこれまで稀少であった弥生時代の竪穴式住居址の検出は、該期の住居形態並びに構造を考えるうえで好資料となるものである。古墳時代は 4 ～ 6 世紀の竪穴式住居址 4 栋、掘立柱建物跡 1 栋を確認した。生活関連遺構の数の増加は集落が安定的に営まれていたことを示唆している。包含層から出土した遺物が該期に集中していることは集落内の余剰生産物の増加を示している。つまり古墳時代に移行した段階では検出遺構、出土遺物等から集落がより安定的に形成されていたと推測される。古代末～中世は 10 ～ 15 世紀の土坑墓 2 基と性格不明遺構 1 基を検出した。これらの遺構や共伴した遺物は当時の埋葬観念や社会構造を考えるうえで好資料となるものである。

【文献】「樽味四反地遺跡 2 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 V』1993



図 2 遺構配置図

樽味四反地遺跡 4 次調査地

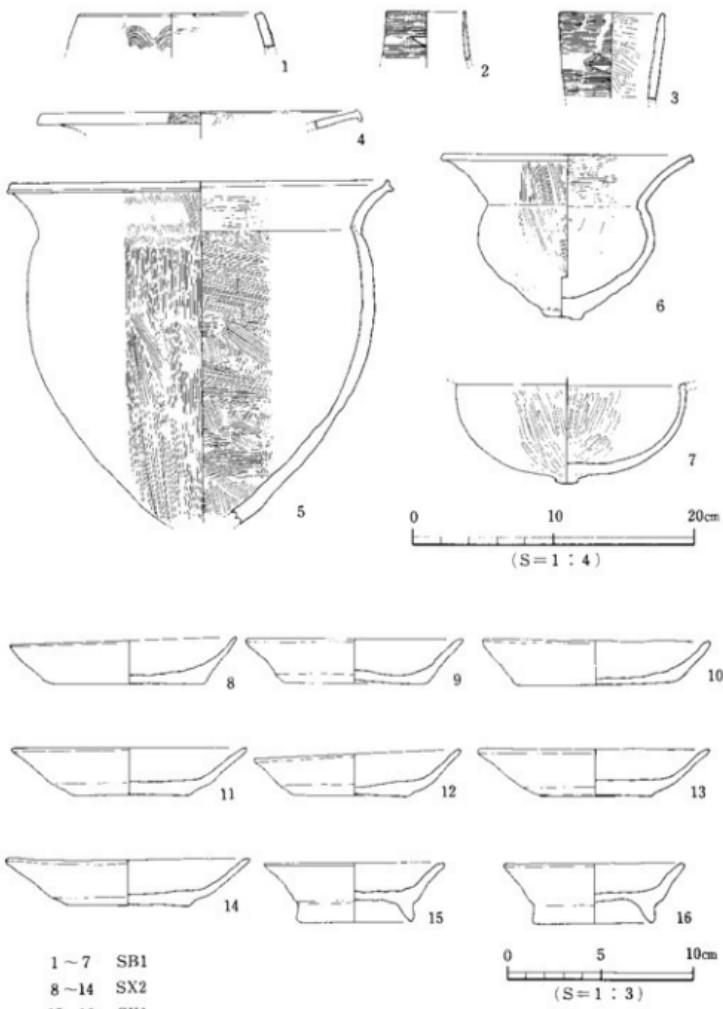


図 3 出土遺物実測図

博味四反地遺跡 4 次調査地

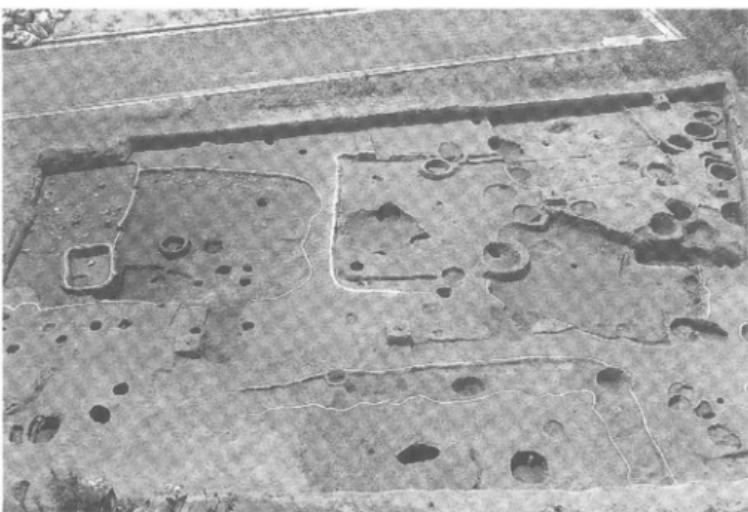


写真1 完掘状況（北より）

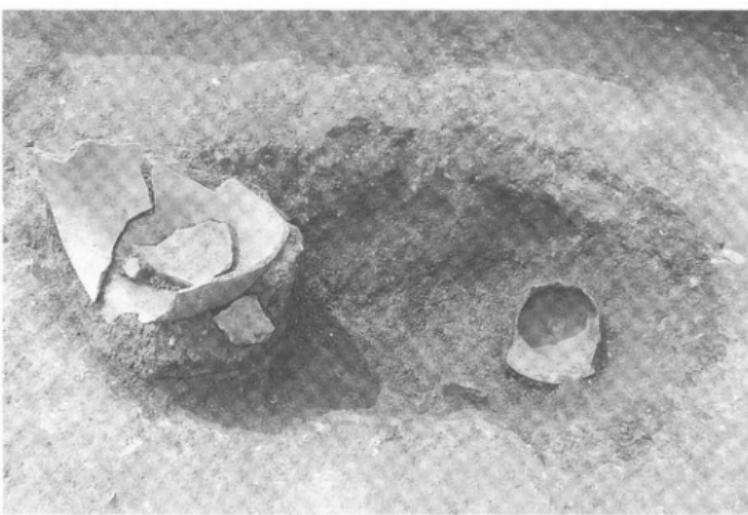


写真2 SB1内SK24遺物出土状況（北より）

クワバラ タ ナカ
桑原田中遺跡 2 次調査地

所 在 地 松山市桑原 6 丁目520番地
(他 2 筆)
期 間 平成 5 年 3 月 4 日～
同年 5 月 31 日
面 積 791m²
担 当 梅木・山本



図 1 調査位置図

経過 本調査地は枝松遺跡包含地内における宅地造成に伴う事前調査である。平成 3 年 3 月に試掘調査を実施した。調査の結果、溝 2 条と柱穴 5 基の遺構の他、弥生土器、土師器、須恵器などの遺物を検出した。本調査地は石手川中流域南岸の微高地上、標高 32.2m に立地する。調査地周辺には、桑原田中遺跡 1 次調査地、桑原西稻葉遺跡、桑原本郷遺跡、東本遺跡（1 次～3 次）など弥生時代から古墳時代の遺跡が密集する地域である。

遺構・遺物 検出遺構は掘立柱建物 1 棟、溝 11 条、土坑 7 基、柱穴 198 基（掘立柱建物を含む）である。掘立柱建物 S B 1 は調査地中央部に位置する。建物規模は 2 間 × 4 間の純柱建物である。桁行 8 m、梁行 3.9 m を測る東西棟で、平均柱間は桁行、梁行とも 2 m である。柱穴は梢円形の平面プランを呈し、径 34～50 cm、深さ 20～40 cm を測る。柱穴埋土は暗灰褐色土である。遺物は焼土と根詰め石が出土したが、建物の時期を確定できる遺物の出土はない。ただし、柱穴埋土から中世～近世の建物であろうと思われる。この他、比較的残りの良い状態で土師器の出土した溝 S D 7 がある。調査区東中央から南西隅に位置し、S D 4・6 に切られ、S D 5 を切る。断面形は皿状を呈し、上場最大幅 3 m、深さ 30～50 cm、検出長は 21.6 m を測る。床面は多少凹凸があり、東から西へ傾斜が見られる。埋土は上層の黒色土、下層の暗灰色砂礫の 2 層に大別される。ただし、溝東部では下層中に黄灰色砂溜りが見られ、南西部では下層は暗灰色砂礫と黄灰色砂の互相で堆積をなしている。遺物は上・下層より弥生土器、土師器が出土しているが、弥生土器は磨滅を受けている。上層中の土師器は高環・小型丸底壺が目立ち、高環はその場で割れた状態で出土したものもある。

小結 本調査においては弥生時代から近世に至る遺構・遺物を確認することができた。検出された溝は人為的な掘り方が認められないことなどから、調査地に西隣する小河川の旧河道と考えられる。一方、溝からは、完形に近い遺物が出土しており、調査地周辺に集落が存在する可能性が高いと考えられる。ただし、当地が居住地として使用されはじめたのは中世～近世になってからと想定される。

桑原田中遺跡 2 次調査地

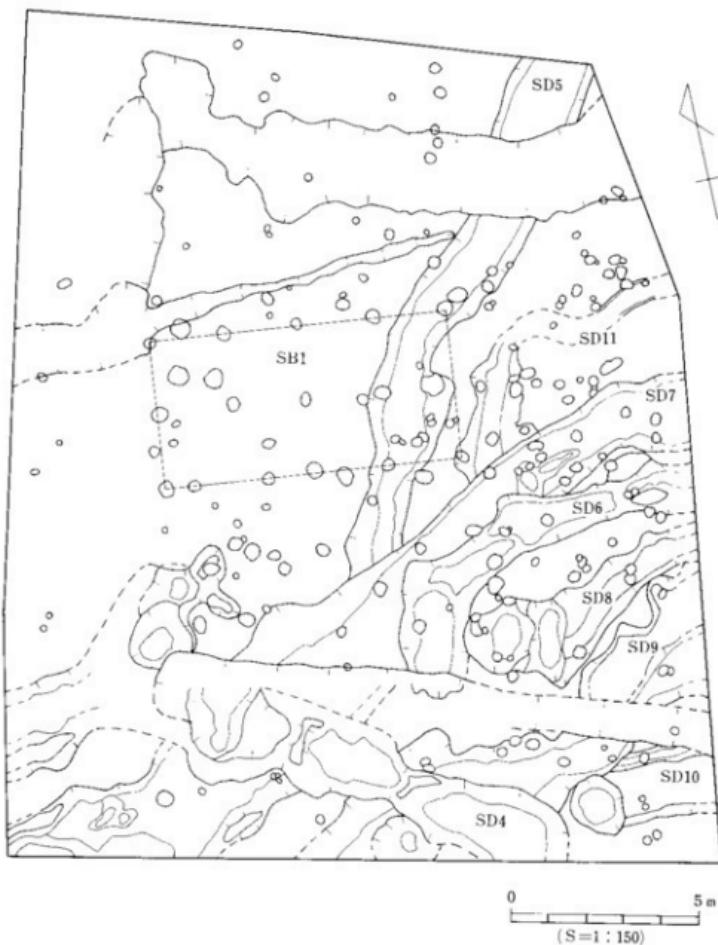


図2 遺構配置図

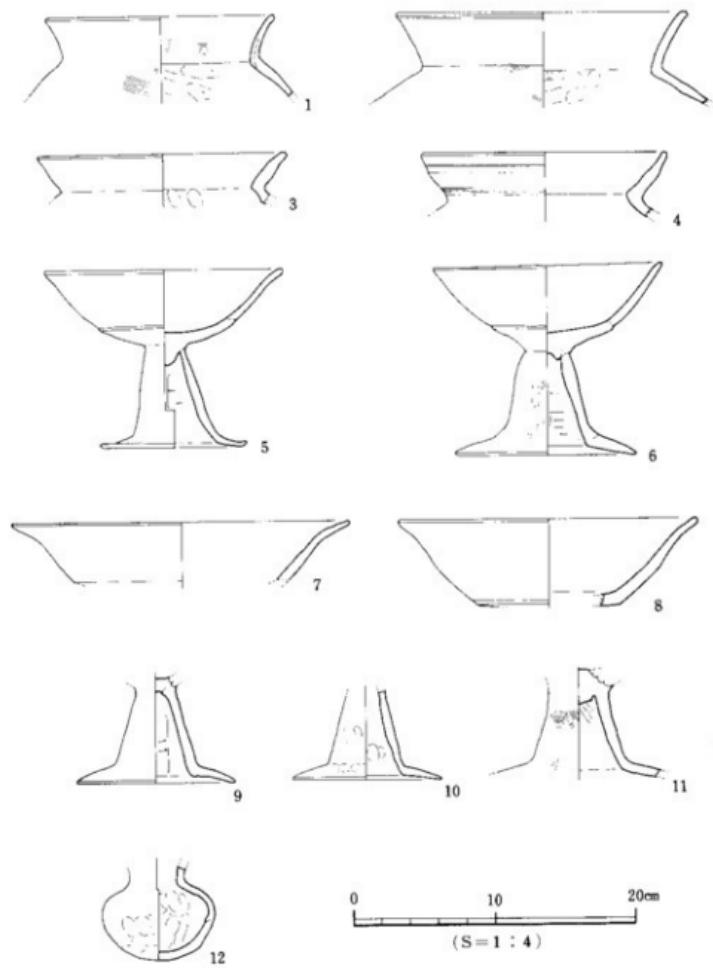


図3 SD7上層出土遺物実測図

桑原田中遺跡 2 次調査地



写真1 調査地全景（北東より）



写真2 SD7 遺物出土状況（北西より）

キタ ク メ ジョウレンジ
北久米淨蓮寺遺跡 3次調査地

所 在 地 松山市北久米町671-1
外 8 筆
期 間 平成 4年 9月16日～
平成 5年 7月17日
面 積 約6,526m²
担 当 橋本・相原(秀)

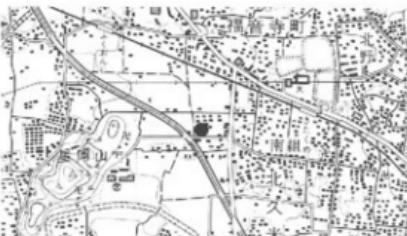


図1 調査地位置図

経過 本調査は、北久米遺物包含地内における宅地造成にともなう事前調査である。調査地は、国道11号線の北に広がる微高地上に位置している。過去に当調査地の南と西の隣接地において、2次にわたって調査が行われており、カマド付きの竪穴住居や、古墳時代の掘立柱建物などが確認されている。平成3年6月に行われた試掘調査の際に、住居跡から初期須恵器の甕が出土したことから、当該期の集落構造の解明を目的として本格調査を実施した。

遺構・遺物 調査の結果、各遺構は1～11期に区分されることが明らかとなった。

〔1期：5世紀前半〕SB9、7、6、5を中心として集落を構成している。各竪穴住居には、北西壁のほぼ中央に造り付けのカマドが存在する。屋根は四本柱によって支えられており、周壁溝には多数の小ピットが認められる。南の隣接地における1次調査の際に、これらの住居と方向性が一致する竪穴住居2棟が検出されており、最低6棟から成る集落であったことが判明している。

〔2期：5世紀中ごろ〕SB7と9は増築され、SB5と6は2間×4間の掘立柱建物に立て替えられる。カマドの位置など、住居の構造に大きな変更は認められない。SB9のカマドの北には、壁に平行に幅約50cm、高さ約10cmの台状の遺構が確認された。この遺構の南端、カマドとの接点には、TK216からON46に平行する時期の甕が試掘調査の際に元位置から出土している。また、カマドの中央には土師器の高杯が伏せた状態で置かれていた他、柱の抜き取り跡からも完形に近い土師器の高杯が1点出土している。

〔3期：5世紀後葉〕2期の集落の背後に位置する掘立1から4と、調査区南東部の竪穴住居群中で最も古い時期のSB11（5世紀末）などから構成される。SB11については、2期までとは異なり、北壁の中央にカマドの残骸が確認されている。掘立1から4は、その方向性などから、2期の掘立等に連続する時期に属するものと考えられる。SK1～3などもこの段階に属する。

〔4期：6世紀～7世紀初頭〕3期のSB11に後続するSB10などの竪穴住居が重複している箇所の他、掘立15、18などから構成される。SB10には、北壁中央にカマドが造り付けら

北久米淨蓮寺遺跡 3次調査地



図2 遺構配置図

れている。小型鐵斧1点、鐵鎌1点の他、鐵滓も数点出土しており、小鍛冶が行われた可能性がある。掘立20からT K209の蓋杯が出土している。これらの建物の軸線の方向は、真北からおよそ10~15度東に振っている。

〔5期：7世紀第1四半期〕建物の軸線が磁北よりも少し西に振った方向に設定されている段階である。掘立14、SB1が属する北西のグループと、掘立10を中心とする南のグループに区分できる。SB1の北壁中央には、灰を伴うカマドが存在する。北西のグループは、壁穴住居が掘立柱に建て替わったものと考えられる。なお、このグループの継続期間の始めは、4期との重複も想定される。一方、南のグループは、桁行きが5間の掘立10、6間である可能性が高い掘立11、脇殿的建物である掘立12から構成される。SA2についてもこの段階に属する可能性が強い。なお、SB10から小型鉄斧が一点出土している。

〔6期：7世紀第2四半期〕建物の軸線が磁北から真北付近に集まっている段階で、調査区北西部に位置する掘立5、17、19、23から成る。柱穴の形状は概ね方形に近い。これらの特徴は、この建物群が官衙的な施設との関係から成立している可能性を示唆するものと言える。

〔7期：7世紀中ごろ〕建物の方位規制が一時的に崩壊し、各建物の軸線が東に約30~50度ほど振る段階である。掘立13、15、16によって構成されており、いずれも棟間が2間であることが特徴的である。柱穴は方形に近いものが多い。建物の面積が前段階と比較して縮小し、しかも方向性が大きく崩れることは、当該期が古代社会における一大変革期（混乱期）に当たっていることと関係があるのかもしれない。

〔8期：7世紀第3四半期〕建物の軸線が真北を基準とし、区画溝を伴う段階である。SD10と21に用まれた区画の中に掘立21と24、SK8と9が存在している。掘立21は12を切り、SD10と21は重複関係のあるすべての掘立を切っている。SD10の東端は南東方向に屈曲しており、この部分に近接して掘立6と7が位置している。SDの主軸方向は東に度数振っており、来住、久米地区に存在する他の区画施設を伴う遺構の方向性と共通している。

〔9期：7世紀第4四半期～8世紀代〕7期のSD21と29に平行なSD24とSK19によって構成されている。遺構の埋土の色調は、6期の赤黒色からオリーブ黒色に変化し、拳大の角礫が多く混じる。なお、この段階の建物は検出されていない。

〔10期：15世紀初頭を下限〕中世の区画溝であるSD2（8、9期の溝と平行）とSD15の他、SD7、8などで構成される。区画の内側になんらかの施設の存在が想定されるものの、建物等は確認できなかった。畑作地の区画である可能性も考えられる。

〔11期：近世〕SK23と24が該当する。24においては粘土化した人骨の残骸を確認した他、剣葬品として肥前系の削出高台付の皿が1点出土しており、17世紀前半のものと考えられる。現在の用水路と方向性が一致するSD1と3についても、この段階に属する可能性が高い。

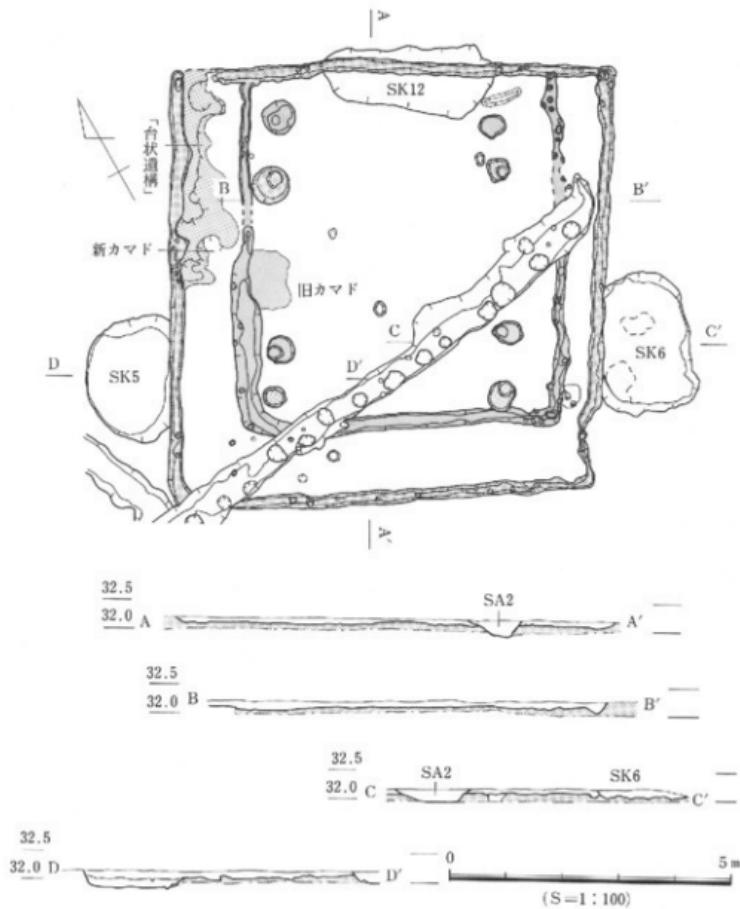


図3 SB9測量図



図4 出土遺物実測図

1~6 SB9 7 SB5
8, 9 挿立20 10 SD21
(S=1:4)



写真1 SB9出土初期須恵器

北久米淨蓮寺遺跡 3次調査地



写真2 調査地全景（西より）

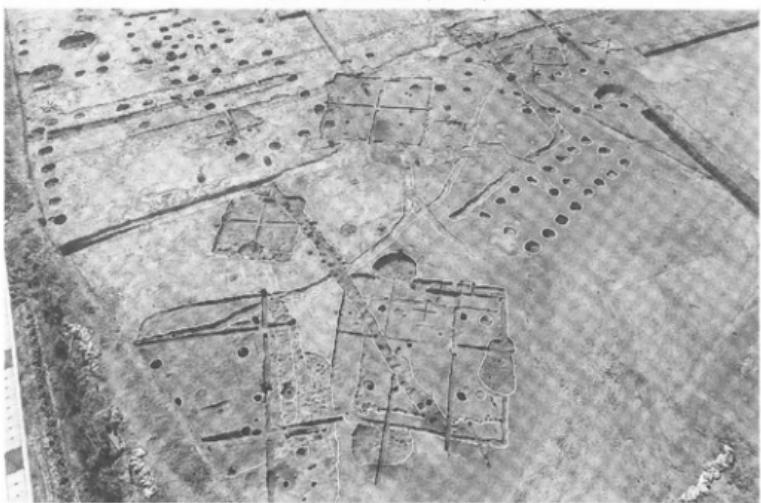


写真3 SB 9付近発掘状況（南東より）

キタ ク メ ジョウレンジ
北久米淨蓮寺遺跡 4 次調査地

所 在 地 松山市北久米町882 2外

期 間 平成 5年11月24日～
平成 6年3月19日

面 積 1,546m²

担 当 栗田（正）・小笠原



図1 調査地位置図

経過 本調査は、民間の店舗建設に伴う事前緊急調査である。本調査地は、米住台地から福音寺にかけての低丘陵地に立地し、單ヶ岡丘陵より東へ300m、北久米遺跡群の南東、標高約32mに位置している。周辺には1、2、3次調査地の既往調査地が隣接し、南西に南久米片廻り遺跡2次調査地、北西には西日本でも有数の弥生・古墳時代にかけての大集落遺跡である福音小学校構内遺跡、さらに西には天山・星岡・東山古墳群があり、また、南東部には二つ塚古墳、その後方には白鳳期に造営された国史跡「米住廃寺跡」や久米高畠遺跡群が米住舌状台地上に控え、これらの遺跡群とのつながりを考える上でも重要な地域である。

遺構・遺物 基本層位は第I層造成土、第II層耕作土、第III層水田床土、第IV層にぶい褐色土、第V層褐色土、第VI層褐色土細疊合土（地山）であり、調査区内の旧地形は全体に東から緩やかに西へ傾斜するが、調査区中央部および北半分はかなり削平をうけ、遺構の遺存状態は悪く地面上での検出となった。

本調査では、竪穴式住居址3棟、掘立柱建物跡6棟、土坑6基、溝8条、柱穴197基等の遺構が検出された。竪穴式住居址では磁北を基準とするもの、および真北から東に50～55度程度振るものを検出した。

掘立柱建物は、磁北を基準とするものと真北から東に約10度振るものを検出し、中でもSB3・4においては（図3）、その位置関係、方向性及び柱穴埋土の状況から短い間での建て替えが行われたと考えられる。また、調査区中央のSD1は3次調査においても検出され、本調査地以南に延びる事を確認した。遺物は环身、平瓶、土師器片等が出土している。

小結 本調査では、3次調査とほぼ同様な遺構、遺物群の検出を見ることとなり、3次調査で見られた集落の南部への広がりを確認した。これらの遺構群は、3次調査に於けるやや大型規模の遺構群に対し、比較的小規模な遺構群であるため同集落の南端部域であること、ならびにSD1の存在を考慮すればさらに本調査地以南における同集落端部の存在を解明する手がかりになるものと考えられ、今後の久米地域周辺の遺跡を考える上で好資料ともなるものである。

北久米淨蓮寺遺跡 4 次調査地

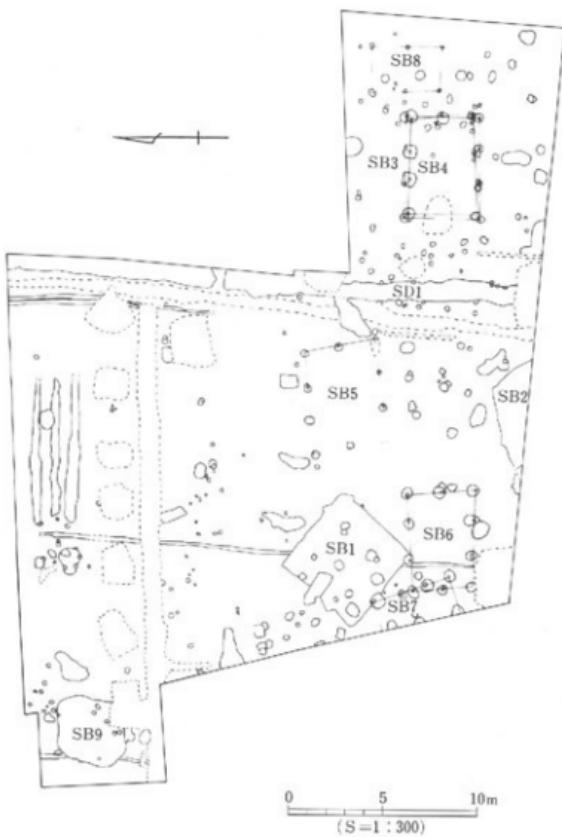


図 2 遺構配置図

北久米淨蓮寺遺跡 4次調査地

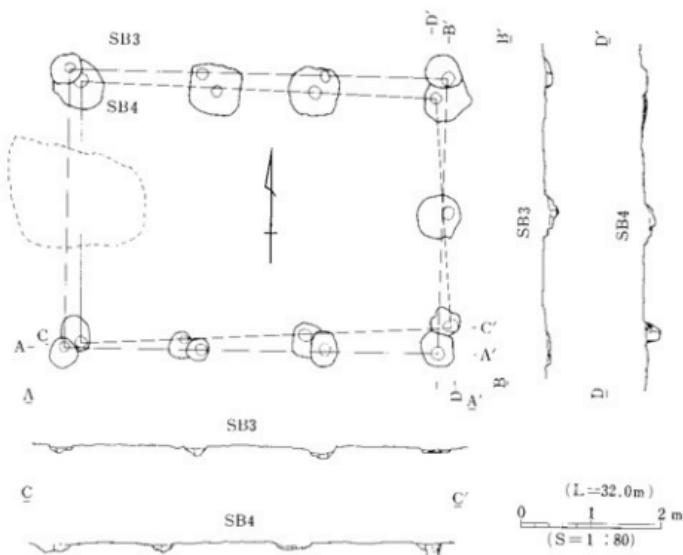


図3 SB3・4測量図

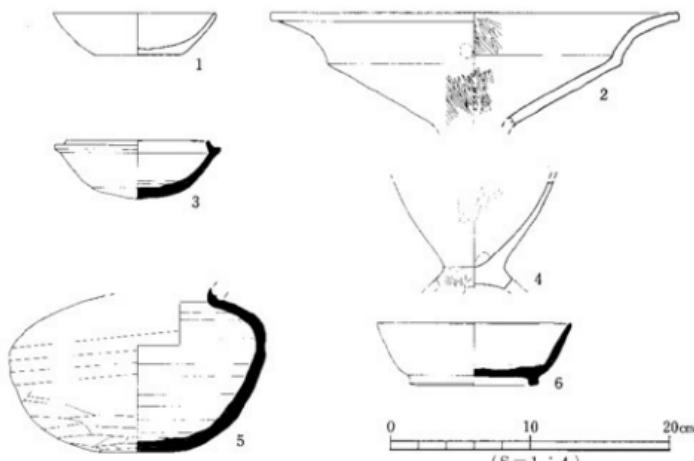


図4 出土遺物実測図

北久米淨蓮寺遺跡 4 次調査地



写真1 南半分遺構検出状況（西より）

クメタカバタケ 久米高畠遺跡22次調査地

所 在 地 松山市南久米町770-1・771
期 間 平成5年7月1日～
同年10月30日
面 積 1,945m²
担 当 田城・水本



図1 調査地位置図

経過 本調査は、来住庵寺跡包蔵地内における粘土採取に伴う事前調査である。平成5年1月18日から2日間試掘調査を実施し、ピット状遺構2基と弥生時代後期から古墳時代・古代にかけての多数の遺物及び包含層を確認したため、当該地に弥生時代から古代に至る遺構の存在することが明らかとなった。

当該地は、標高37.8mを測り、松山平野北東部に広がる来住舌状台地上にあり、国指定史跡来住庵寺跡より北東200mのところに位置する。現在までに、調査地北方50mにおいて西流する堀越川を境とする来住台地には、官衙的遺構や古代集落で知られる久米高畠遺跡群・米住遺跡群など有数の遺跡地帯があり、特に「久米評」線刻須恵器を出土した久米高畠遺跡7次調査地や掘立柱建物7棟と「上」「ノ」を墨書きされた須恵器、木簡など官衙遺構を窺わせる遺物を出土した久米窪田II遺跡など、数多くの遺跡が密集する地域であることが判明している。一方、堀越川北面の調査地近隣では、僅かに古墳時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した南久米北野遺跡1・2次調査地を知るのみであったが、近年の調査によって北久米町屋敷遺跡・南久米町遺跡1次調査地などにみられる古墳時代後期から古代、さらには中・近世に跨がる遺跡が続々と確認されている。

また、本調査地北側に隣接する久米高畠遺跡1次調査地(昭和60年調査)、東側に隣接する久米高畠遺跡11次調査地(平成元年調査)があり、そこから7世紀中頃に比定される柵列状遺構・正殿的建物と推される掘立柱建物跡などが検出されている。2遺跡の調査結果により、両遺跡から検出された柵列状遺構は方形状の区画を形成することが推測され、その中に遺存する建物跡はすべて柵列と同一の方向性を持つことが確認された。

これらのことから、柵列状遺構が方形を成すことが想定され、その西側の南北に延びる一辺の確認と、それに付随する掘立柱建物跡の規模や柵列との関連性について調査することを主目的として実施した。

遺構・遺物 基本層位は、第I層表土(耕作土)、第II層水田床土、第III層暗褐色土、第IV層黒色土、第V層黒褐色土、第VI層黃褐色土である。

第I層から第II層までは、20~25cmの厚さを測る。調査区北部は、微高地となっているためにIV・V層がなく、III層直下がVI層の地山であった。北から南にかけて緩やかに傾斜しており、東部・北部に確認されている弥生時代の集落からの遺物の流入があったものと推測できる。IV・V層からは弥生時代中期から後期にかけての土器や石器が多数出土している。VI層上面より6世紀から7世紀にかけての土師器、須恵器が検出され、官衙関連遺構は同レベルより確認された。

今回の調査によって確認された遺構は、柵列状遺構1状、掘立柱建物遺構5棟、溝状遺構12条、土坑状遺構7基、柱穴85基、不明遺構10基であり、遺物は弥生時代中期から後期にかけての弥生式土器、須恵器の环身・环蓋、高坏、石庖丁、砥石などであった。

本調査は、これまでの調査で得られた久米高畠遺跡1・11次調査の結果をもとに、既に検出されている柵列状遺構・掘立柱建物遺構などを確認するため実施し、一辺42.8mからなる「匁」字状になる柵列を確認した。ただ、この一辺は「匁」の字に区画された西側の南北に延びる柵列であり、東側の南北の一辺については未確認である。また、柵列内からは1・11次調査に接合する掘立柱建物遺構4棟と新たに部分検出ではあるが掘立柱建物1棟を検出した。その他、柵列と平行して南北に延びる溝や7世紀初頭の須恵器を出土した溝状の不明遺構などを確認したが、それらの性格については、土壤サンプリングによる科学的分析、柵列との関連性など、現在調査中であり今後の調査課題としておく。

以下、主な遺構と出土遺物について記述する。

1. 柵列(S A 1)：調査区のほぼ中央に23基の柱穴が「L」字状に配した状態で検出された。南北軸は、真北より1°50'東に振れており、ほぼ真北の方位をとっているといえよう。柱穴の堆積土は、黒色土の中に乳白色粘土塊が混入した状態である。形状(掘り方)は、直径60~80cm、深さ50~70cm、ほとんどが円形であるが、うち8基については方形を呈している。



図2 基本層位図

柱間隔は、170～180cmで、柱痕がほとんど確認できなかったため、柱痕間の距離について詳細不明である。前回の1・11次調査結果と合わせると柵列は「匁」字状になる。南北に延びる西側の一辺は、25基の柱穴で構成され、全長42.8mを測る。柱穴内からの遺物は、ほとんど確認されなかつたが、唯一S P 16の柱旗内堆積黒色土下層より、6世紀後半から7世紀前半に比定される須恵器短頸壺を出土した。

2. 掘立柱建物跡(S B 1)：調査区北隅東側に3基の東西に並列する柱穴を検出した。柱穴は、一辺約1m、深さ80cmの方形を成し、直径23cmの柱痕を遺存していた。柱痕間の距離は2.2mと等間隔、柱痕の深さ78cmである。1次調査の結果と合わせると桁行3間×梁行2間(720×440cm)の柵列に平行する南北を長軸とする建物である。堆積土は、暗褐色土に乳白色粘土塊がブロック状に混入していた。須恵器細片が数点出土しているが、いずれも胸部である。

3. 掘立柱建物跡(S B 2)：調査区北部東側に6基の柱穴を検出した。柱穴は、一辺約80cmの方形2基、直径80～100cmの円形4基であり、それらはそれぞれ深さ約60cmである。堆積土は、黒褐色土に乳白色粘土塊がブロック状に混入していた。柱痕は直径25cm、桁行の柱痕間隔は約230cm、梁行の柱痕間隔は約260cmで11次調査の結果と合わせると桁行5間×梁行2間(1,100×510cm)の柵列に平行する南北を短軸とした建物である。S P 3の柱穴上層より、6世紀後半から7世紀前半に比定される須恵器环身片を出土した。

4. 掘立柱建物跡(S B 3)：調査区北隅東側に4基の柱穴を検出した。柱穴は、直径約90cmの円形のもの5基であり、それらはそれぞれ深さ約50cmである。柱痕は直径20cm、桁行の柱痕間隔は約180cm、梁行の柱痕間隔は約245cmで11次調査の結果と合わせると桁行3間×梁行2間(680×350cm)の柵列に平行した建物である。柱穴の堆積土は、黒色土の中に乳白色粘土塊が混入した状態であり、遺物は全く検出されなかつた。

5. 掘立柱建物跡(S B 4)：調査区中央東側に6基の柱穴を検出した。柱穴は、直径約80cmの円形のもの6基であり、それらはそれぞれ深さ約50cmである。柱痕は検出されず、桁行の間隔は約180cm、梁行の間隔は約178cm、11次調査の結果から関連する道構がなかつたため全容は明らかではないが、梁行3間(530cm)、桁行については2～3間の建物を想定することができる。柱穴の堆積土は、黒色土の中に乳白色粘土塊が他と比較して少量混入した状態であった。遺物は全く検出されなかつた。

6. 掘立柱建物跡(S B 5)：柵列西壁に平行して3基の柱穴を検出した。柱穴は、直径約90～100cmの円形のもの3基であり、それらはそれぞれ深さ約70cmである。柱痕は直径28cm、梁行の間隔は約215cm、桁行の間隔は11次調査の結果より約230cmであり、桁行6間×梁行2間(1,340×440cm)である。柱穴の堆積土は、黒色土の中に乳白色粘土塊が他と比較して少量混入した状態であった。遺物は全く検出されなかつた。

7. 溝状遺構(S D 5)：調査区ほぼ中央において、南北に柵列と平行して南流する幅60～75

久米高畠遺跡 22 次調査地

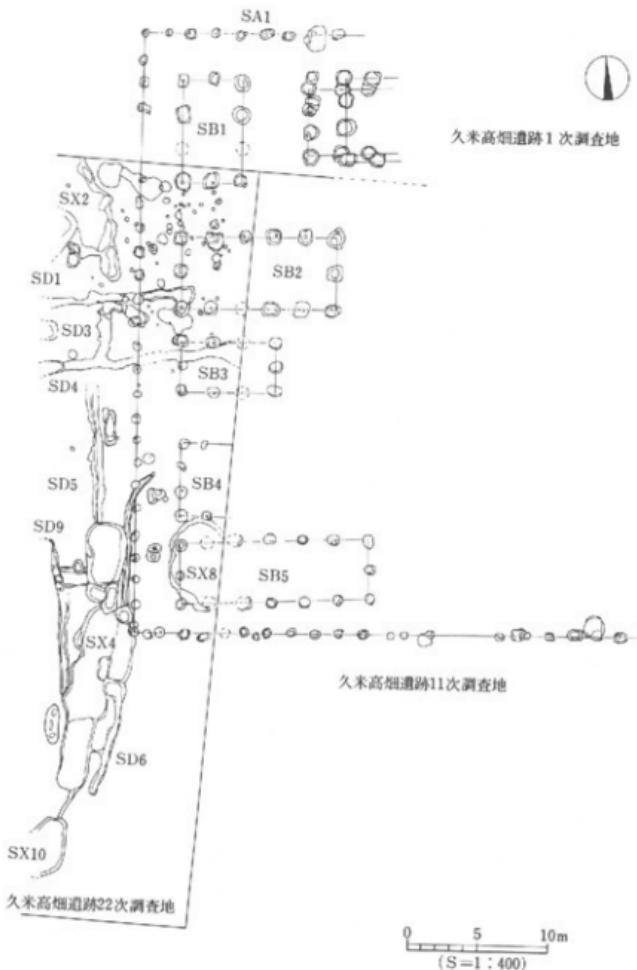


図 3 遺構配置図

cm、深さ 2 ~ 5 cm、長さ 10 m の溝であるが、遺構検出面（2 cm 上面）において S D 3・9 とつながっているのを確認している。柵列と平行しているため雨落溝の可能性も考えられる。なお、S D 5 は S X 4 をくる状態で検出されている。堆積土は、黒色土の中に乳白色粘土塊が少量混入した状態であった。

8. 不明遺構（S X 4）：調査区南西部において、南北に長い堀状の遺構である。幅 2 ~ 4 m、深さ 20 ~ 40 cm、長さ 19 m、南から北にかけて緩やかな階段状になっており、堆積土は全体黒色土である。遺構検出面上部より須恵器高壺、遺構床面より須恵器环身を検出した。その他、堆積土内からは須恵器环蓋、短頸壺など多数の須恵器片を出土している。

9. 不明遺構（S X 8）：調査区中央東部において、半円形を成して東調査区外に延びている。直径 7 m、深さ 30 ~ 50 cm を測り、堆積土は全体黒色土である。遺構検出面上部より S B 5 の柱穴 2 基を検出している。堆積土上面より弥生時代後期壺片、須恵器片を出土したが、下層からは全く検出されなかった。

小結 今回の調査で、これまでに隣接地において調査された久米高畠遺跡 1・11 次調査によつて想定されていた方形の柵列が「匁」字状になることが確認され、一辺 42.8 m、24 間の方形区画を成す官衙遺構であることがほぼ明確となった。南北の軸は概ね真北をとり、内部建物の方位については梁行・桁行方向が柵列と同一の方向性を持ち、南北に 6 棟の掘立柱建物が整然と配陣されていることが確認された。

建物を構成する柱穴の規模は、直径が 1 m 内外の方形または円形を呈し、深さは 80 cm 内外の形態をもつものが基本的である。調査区内は北から南へ緩傾斜しているため南部が北部より 50 cm 程度低く、そのために II 地形上に第 V 層 黒褐色度が堆積した上に掘立柱建物を構築したものと考えられる。湧水・豪雨などの悪条件によって第 V 層からの遺構検出は判然とせず、結局第 VII 層 黄褐色土上面からの遺構検出となり、北部と南部とでは多少柱穴の規模が異にして完掘した。ただ、北部の S B 1 の柱穴にても耕作土直下からの検出であるため、遺構上面はある程度削平を受けているものと思われる。

建物の柱穴から検出された遺物は、わずかに須恵器环身・短頸壺各 1 点であるが、第 V 層 包含層より多数の須恵器、弥生土器を出土した。須恵器は、相対的に T K 43 或いは T K 209 の範疇に入り、6 世紀後半から 7 世紀前半にかけてのものである。弥生土器は、中期から後期にかけて多器種を検出したが、当該期の遺構は全く確認されなかった。これらの遺物は、微高地となっている東隣に 11 次調査によって確認された弥生住居址があり、恐らくその地域からの流れ込みのものと考えられる。

調査区西 100 m の地より「久米詳」と線刻された須恵器片が出土していることから考察して、当該地域周辺に詳衝に關係する施設のあったことは推測でき、それが今回の調査で検出された遺構と深く関連性を持つことは明確である。

この官衙遺構が、来住庵寺遺跡調査によって確認されている向應遺構とほぼ同一の方向性

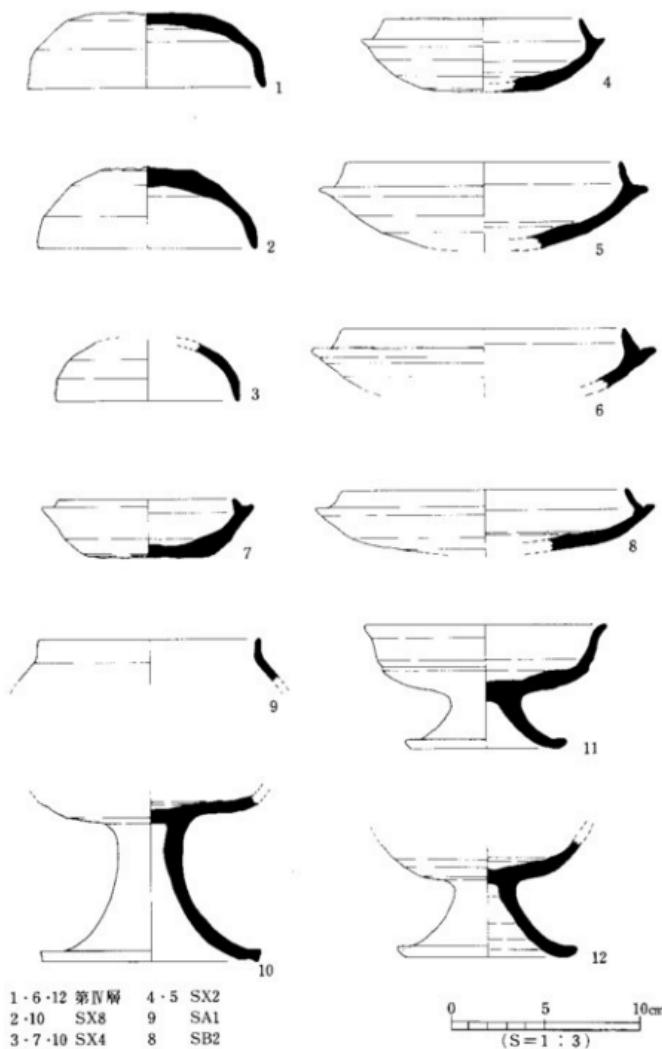


図 4 出土遺物実測図

久米高畠遺跡 22 次調査地

を持って建てられていることから、調査地周辺に同様な施設が数棟あることが推察でき、末住台地上における官衙遺構の広がりや施設の変遷、成立時期などについての詳細な調査検討が今後の課題となった。

- 【文献】 「久米高畠遺跡 7 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報II』1989
「久米高畠遺跡11次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報III』1991



写真1 梱列及び掘立柱建物跡群完掘状況（南西より）

久米高畠遺跡 22 次調査地



写真2 遺構検出状況（南より）



写真3 SB2柱穴完掘状況（西より）

キシハイジ 来住廃寺22次調査地

所在地 松山市来住町662、644番地
期間 平成5年11月15日～
平成6年3月31日
面積 A: 257m² B: 370m²
担当 橋本・相原(秀)



図1 調査地位置図

経過 本調査は、国指定史跡「来住廃寺」に関する寺域確認のための発掘調査である。調査地は、来住台地上に立地する方一町規模の「回廊状遺構」に隣接している。同遺構の北方には、7世紀の「久米評衡」推定地が近接して存在しており、評制、あるいはそれ以前の段階における地方の中核地域の状況を知ることができる、全国的にも極めて珍しい地域である。

今回は、東回廊の前面にトレンチを設定(A地区)し、寺の南限の特定を目指すとともに、あわせて、回廊内に位置する柵列の内側区域(B地区)を調査することによって、「回廊状遺構」の内部構造の把握を目的として調査を実施した。

遺構・遺物 A地区：東回廊の延長線上、塔基壇の南西の位置にトレンチを設定して調査を行った。この場所は、寺に中門が存在したならば、それに取り付く何らかの区画施設が位置することが想定されたが、該当の遺構は確認されなかった。後世の水田開発にもなう削平のため、調査区南部を除いて包含層が遺存しておらず、遺構の残りも全体として悪いものであった。主要遺構としては、掘立柱建物2棟、竪穴住居址(?)1棟、土坑6基、溝3条を確認した。S B 1は古墳時代前半期に属する可能性が高いが、その他の遺構については、ほとんど遺物が出土しなかったことから不明である。ただし、SK 5からは中世の土師器羽釜の破片が出土していることから、14ないし15世紀を上限とする時期の遺構であろうと考えられる。同様に、ほぼ正方位をとるSD 3についても、中世段階に属するものとみられる。遺構に伴わない遺物としては、6世紀末から7世紀初頭の須恵器の杯身、弥生時代の石庖丁、来住廃寺に由来する瓦の小片、金銅製の仏具の破片である可能性が高い遺物などが出土している。金銅製品は、おそらく来住廃寺に伴うものと推測されるが、破片で、しかも変形していることから詳細は明らかでない。表面には、タガネ状の工具によって打ち出された、魚子打の細かな凹凸が認められるが、文様の全容は復元し得ない。

B地区：19次調査で確認された、回廊に伴う門の北側に位置する櫛列の内側の区画について、調査を行った。調査の目的は、柵列の内部の構造を解明することにあったが、これと直接の関係が認められる遺構は検出されなかった。

主な遺構としては、S X 1基、掘立柱建物1棟、柵列2条、土坑9基を確認した。この内、S B 1、S A 1、S A 2と多くの土坑に関しては正確な時期設定は困難な状況にある。掘立1は、その方向性などから、回廊以前の段階の建物であろうと考えられる。S A 1とS A 2に関しては、その方向性などから、回廊に伴うものではないと理解される。S K 1とS K 2については、出土遺物から、回廊廃絶後の8世紀に属するものであると推測される。

調査区最大の遺構であるS X 1は、回廊とあい前後する時期の遺構であると考えられる。図5-4と8は、S X 1から出土した最も新しい段階の遺物である。概ね、7世紀後半のものと考えられる。9は、遺構の検出面上から出土した。遺構埋積後の遺物であろう。この他、銅の薄い板を折り曲げてマッチ箱状の形にまとめられたもの(1)、厚さ0.5mmの短冊状の鉄の板(2)など、年代ははっきりしないものの、特徴的な遺物が出土している。1は、鉄製品をメッキする過程で用いられた銅の薄板を、再利用する目的でまとめたものであろうと考えられる。2は用途不明であるが、均一な厚さに仕上げられた鋳造品である。両端は折れており、原形は保っていない。小札である可能性もあるが、詳細は不明である。3は杯蓋、5~7は6世紀末頃の杯身である。10は、製作技法は須恵器であるが、土師器として焼かれている壺である。この遺物は、7次調査の際に試掘トレンチから出土したものである。概ね、7世紀中葉以前のものと考えられる。11は須恵器の小壺である。この他、分銅形土製品や土器、石瓶丁の未製品など、弥生時代の遺物が多く出土している。

S X 1は「く」の字形の形状をとり、深さは1m弱で均一である。北端については、徐々に浅くなるスロープを形成しているが、これは、掘った土を外に運び出すための構造である可能性が考えられる。掘り方の下場は、疊層を数十センチほど掘り込んでいることから、粘土の採掘のために掘られたものではないと言える。

以上の結果から、回廊内の柵列の内側については（少なくとも、その南部分に関しては）広場であったことが判明した。回廊内においては、過去の調査によって、正規的な建物が確認されているが、脇殿などは一棟も検出されていない。今回、その中心部についても、建物が存在しないことが明らかとなったが、この状況は、「回廊状遺構」が、極めて官衙的性質が濃厚な施設であったことを示すものと、とらえることができる。

【文献】『松山市埋蔵文化財調査年報II』1989

『松山市埋蔵文化財調査年報III』1991

『松山市埋蔵文化財調査年報IV』1992

『松山市埋蔵文化財調査年報V』1993

来往庵寺 22 次調査地



図2 調査区位置図

來住庵寺 22 次調査地

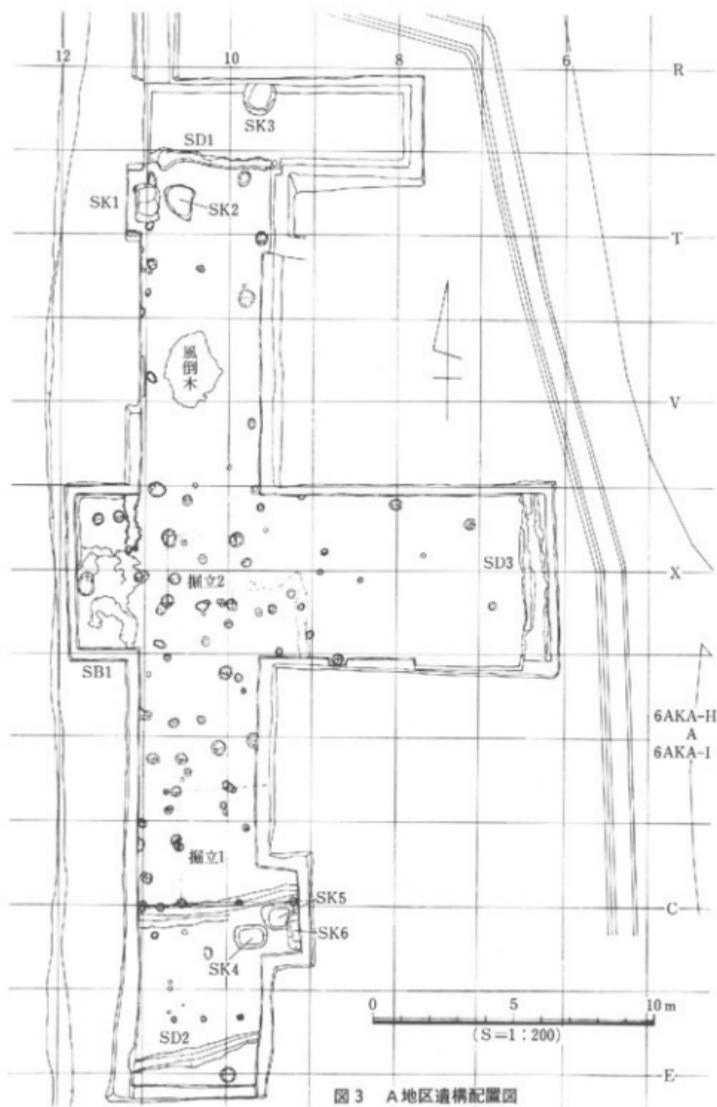


図3 A地区遺構配置図

来住庵寺 22 次調査地

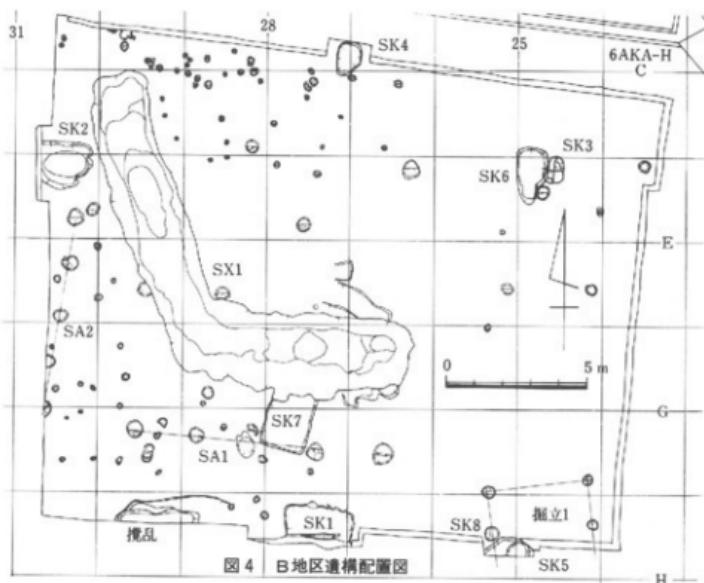


図 4 B 地区遺構配置図

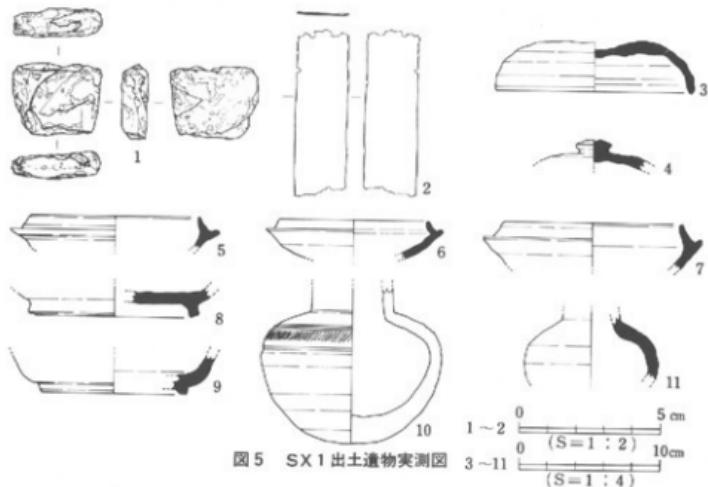


図 5 SX1 出土遺物実測図

来住庵寺 22 次調査地

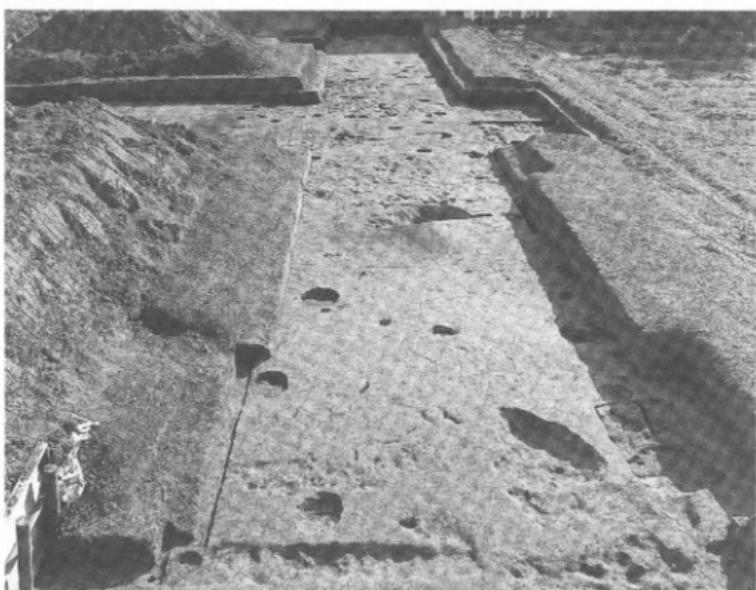


写真1 A地区発掘状況（北より）

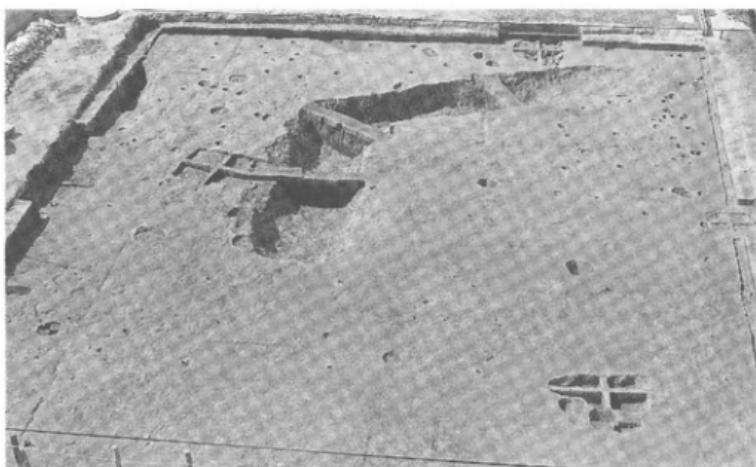


写真2 B地区発掘状況（東より）

ヒラキ 開遺跡 2次調査地

所在地 松山市南土居町179番1

期間 平成5年11月1日～
同年12月27日

面積 498m²

担当 田城・水本



図1 調査位置図

経過 本調査地は、標高39.8mを測り、小野川と重信川に囲まれた両河川の氾濫原中央部に位置する水田であった。調査地周辺には、北方1kmに国指定史跡来住庵寺跡があり、西方200mに白鳳期の中ノ子庵寺比定地、南東600mには松山平野最大級の前方後円墳波賀部神社古墳が所在する。

本調査は、中ノ子庵寺及び遺物包含地内における個人住宅建設に伴う事前調査である。平成4年6月9日試掘調査を実施し、耕作土下20cmより灰褐色土の包含層を検出した。包含層中からは6世紀前半から6世紀後半に比定される須恵器、土師器を、また3基の柱穴や焼土を確認したため、当該地に古墳時代の遺構の存在することが明らかとなった。

よって、平成元年度に実施した開遺跡1次調査の結果により検出された掘立柱建物跡、竪穴住居址など古墳時代中期から後期にかけての集落の広がりと関連性について調査することを主目的として実施した。

遺構・遺物 基本層位は、第I層表土（耕作土）、第II層水田床土、第III層灰褐色土、第IV層暗灰褐色土、第V層黒褐色土、第VI層茶褐色土、第VII層茶褐色砂礫である。

第I層から第III層までは20～25cmの厚さを測る。第IV層は調査区北東部を除きほぼ全域でみられ、同一レベルに10～20cmの厚さで堆積している。第V層は土師器、須恵器を含し、10～15cmの厚さで堆積している。V層下層より遺構を検出した。第VI層は地山面である。

遺構は、第VI層上面で竪穴式住居跡3棟と溝状遺構1状（古墳）、第V層上面で掘立柱建物跡3棟と柱穴39基（古墳）、第VI層上面で不明遺構3基ほかを確認した。

今回の調査によって確認された遺構は、竪穴式住居跡3棟、掘立柱建物跡3棟、溝状遺構1状、柱穴39基、不明遺構3基であり、遺物は弥生式土器、須恵器の环身・环蓋などであった。

本調査は、100m東方において平成元年に調査した1次調査の結果をもとに、当地域における古墳時代後期の集落の広がりを確認することを目的として調査を行った。また、西方200m付近には白鳳期の中ノ子庵寺があったとされる推定地があり、それとの関連遺構についても

開遺跡 2 次調査地

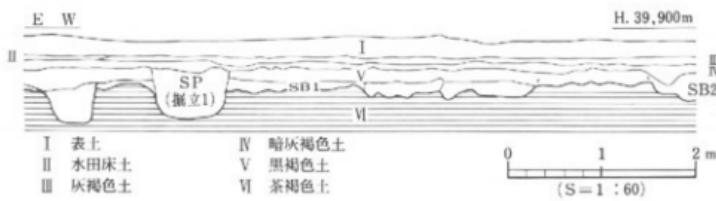


図2 南壁土層図



図3 遺構配置図

注意した。古墳時代から古代にかけての遺構が希薄な当地域だけに今回の調査に期待された。

以下、主な検出遺構・出土遺物について記述する。

1. 壁穴住居址(S B 1)：調査区南東隅に方形の住居址四分の一を検出、残り四分の三は調査区外に及んでいる。壁高18cmを測り、一辺420cm以上の方形で、床面より建物に伴う柱穴、周壁溝などは確認されなかった。ただ、西壁より100cm、北壁より250cmの地点から焼土、炭化物を検出した。平面的には調査区外に及ぶため確認できなかったが、1次調査及び他の住居址から推察して炉跡と考えられる。

出土遺物については、住居址床面からの遺物はなく、上面の第V層より須恵器壊蓋2点を出土した。これらの須恵器は、TK216、TK208に比定され、5世紀中頃から末期にかけてのものであり、S B 1もほぼ同時期の遺構としておく。

2. 壁穴住居址(S B 2)：調査区南西隅に方形の住居址の一部を検出した。壁高12cmを測り、一辺480cmの方形で、床面より建物に伴う柱穴、周壁溝などは確認されなかったが、北壁中央より直径80cm、住居址床面よりの深さ15cm規模の焼土と炭化物で囲まれた炉跡を検出したことなどから、住居址と考えられる。

出土遺物については、住居址床面からの遺物はなく、上面の第V層より須恵器壊蓋1点を出土した。この須恵器は、TK216に比定され、5世紀中頃から末期にかけてのものであり、S B 2もほぼ同時期の遺構と推測される。

3. 壁穴住居址(S B 3)：調査区北西部に方形の住居址を部分検出した。壁高10cmを測り、一辺約600cmの方形で、床面より建物に伴う柱穴3基のほか多数の柱穴を確認した。住居址内北側のほぼ中央に直径90cm、深さ10cmの焼土を検出し、S B 1・2同様炉の痕跡と考えられる。北側壁面は、SD1と直交する溝状遺構によって削平され判然としなかった。

出土遺物は、住居址床面からの遺物はなく、上面の第V層よりTK216に比定される須恵器壊蓋片数点を出土した。

4. 掘立柱建物跡(掘立1)：調査区南部においてS B 1・2遺構検出面よりやや上面にて確認された3×2?間の建物である。主軸をN89°Eにとる東西棟で、東西650cm、南北棟350cm以上を測る。柱穴は直径80~100cmの円形で、深さ30~50cmの遺存である。

出土遺物は、柱穴よりTK10に比定される須恵器壊身片1点を出土し、6世紀中頃の建物と位置付けられよう。

5. 掘立柱建物跡(掘立2)：調査区北部においてS B 3の遺構検出面よりやや上面にて確認された3×?間の建物である。主軸をN92°Eにとる東西棟で、東西504cmを測り、南北棟の規模は不明である。柱穴は直径60~70cmの円形で、深さ40~60cmの遺存である。東西列のみの検出であり、調査区外に及んだ北側の柱穴は確認していない。

出土遺物は、柱穴よりTK10に比定される須恵器壊身片1点を出土し、6世紀中頃の建物と位置付けられる。

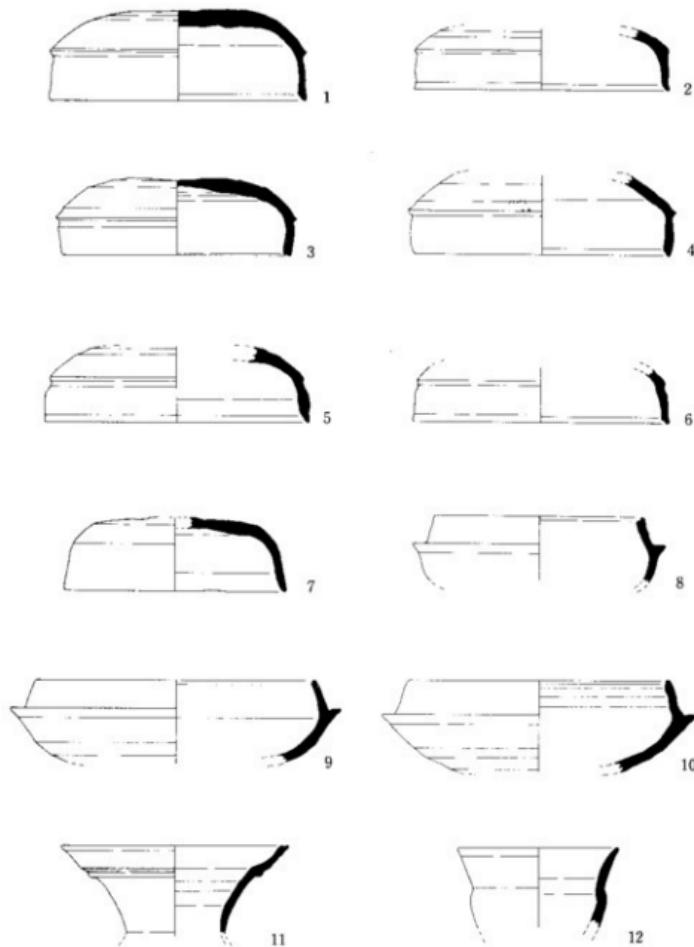


図4 出土遺物実測図

開遺跡 2 次調査地

6. 掘立柱建物跡(掘立 3)：調査区北西隅において S B 3 の遺構検出面よりやや上面にて確認された軸を N91°E にとる建物である。柱穴は直径60～80cmの円形で、深さ50～60cmの遺存である。柱穴は3基のみの検出であり、全容は不明である。

柱穴よりの遺物の出土はない。

小結 今回の調査では、各住居址とも全体像を検出することができなかったものの、1次調査によって確認された住居址の規模とほぼ同様な形態をとっており、遺物についても5世紀中頃から6世紀中頃にわたる須恵器の壊身・壊蓋など、1次調査と同時代のものを出土している。本調査の結果、1次調査の結果を補充・充実する資料となり、当該地域における古墳時代中期から後期にかけての集落構造を知る好資料となるものである。



写真1 遺構検出状況（北西より）



写真2 造構発掘状況及び皿ヶ峯遠望（北西より）

カミカリヤ 上苅屋遺跡 2次調査地

所在地 松山市平井町甲980番地2
 期間 平成6年1月5日～
 同年2月28日
 面積 492.79m²
 担当 宮内・水本



図1 調査位置図

経過 本調査は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「90権現山古墳群」内における宅地開発に伴う事前調査である。本調査地は平成2年度に実施した上苅屋遺跡1次調査地の南側部分にあたる。周辺地域では調査地の北方に広がる丘陵部にかいなご古墳群・平井谷古墳群・今吉古墳群など数多くの古墳が分布している。北東部の丘陵斜面には古墳時代後半から古代にかけて須恵器生産が営まれていたと考えられる駄馬姫ケ懐窓跡が確認されている。

遺構・遺物 本調査地の基本層位は第I層表土、第II層灰褐色土、第III層灰褐色土、第IV層赤褐色土である。第I層及び第II層は水田耕作に伴う耕土で地表下15～30cmまで開発が行われている。遺物は近現代の陶磁器片が出土している。第III層は調査区ほぼ全域でみられ厚さ5～10cmの堆積で土師器・須恵器片が少量出土している。第IV層は拳大の礫を含む砂砾層であり調査区全域に広がっている。本層上面において遺構を検出した。地形測量の結果、調査区南西部が最も高く漸時、北及び南東に向けて緩傾斜をなしている。

本調査において検出した遺構は、掘立柱建物跡2棟（古墳時代）、溝状遺構1条、柱穴103基である。いずれも第IV層上面での検出であるが遺存状態などから本来は第IV層より上の層から掘られた可能性が高いものばかりである。

H. 81,600m

小結 今回の調査において弥生時代・古墳時代・中世の遺構と遺物を確認した。第III層中からではあるが弥生時代の遺物が出土している。これは周辺に該期の集落が存在していたことを物語っている。古墳時代は掘立柱建物跡2棟を確認した。層位関係・出土遺物等から6世紀以降に建てられたものと考えられる。1次調査においても同時期の小型石室や掘立柱建物跡、溝等が検出されている。これまで当地や周辺地域

I	表土	(15～20cm)
II	床上	(7～12cm)
III	灰褐色土	(5～10cm)
IV	赤褐色砂砾	(10～40cm)
V	赤褐色土	S=1/20

図2 基本層位図

上苅屋遺跡 2 次調査地

での発掘調査は数例しか行われておらず、遺跡の有無や範囲、性格などは不明であった。本調査においての古墳時代の遺構の検出は少なからず該期に集落が存在していたことを立証する資料となるものである。今後は資料収集を重ね当地や周辺地域の弥生時代から中世までの集落の動態を明らかにし、その変遷を考えていかねばならないであろう。

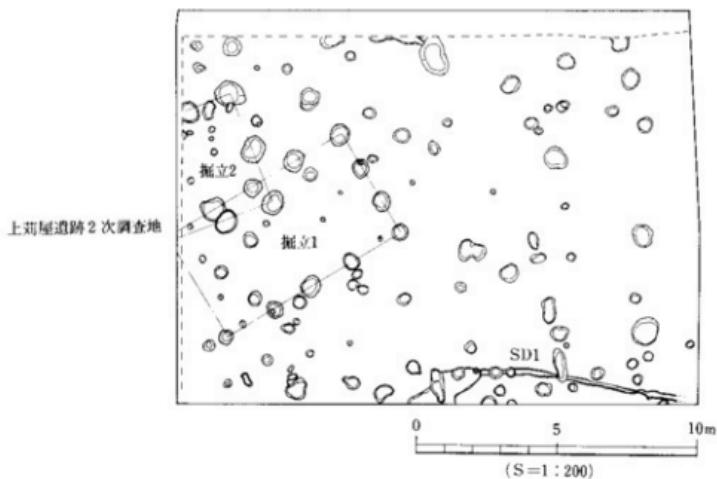
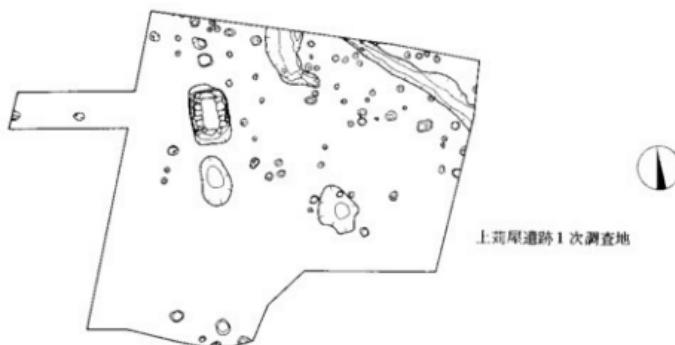


図 3 造構配置図

上沟屋遺跡 2 次調査地

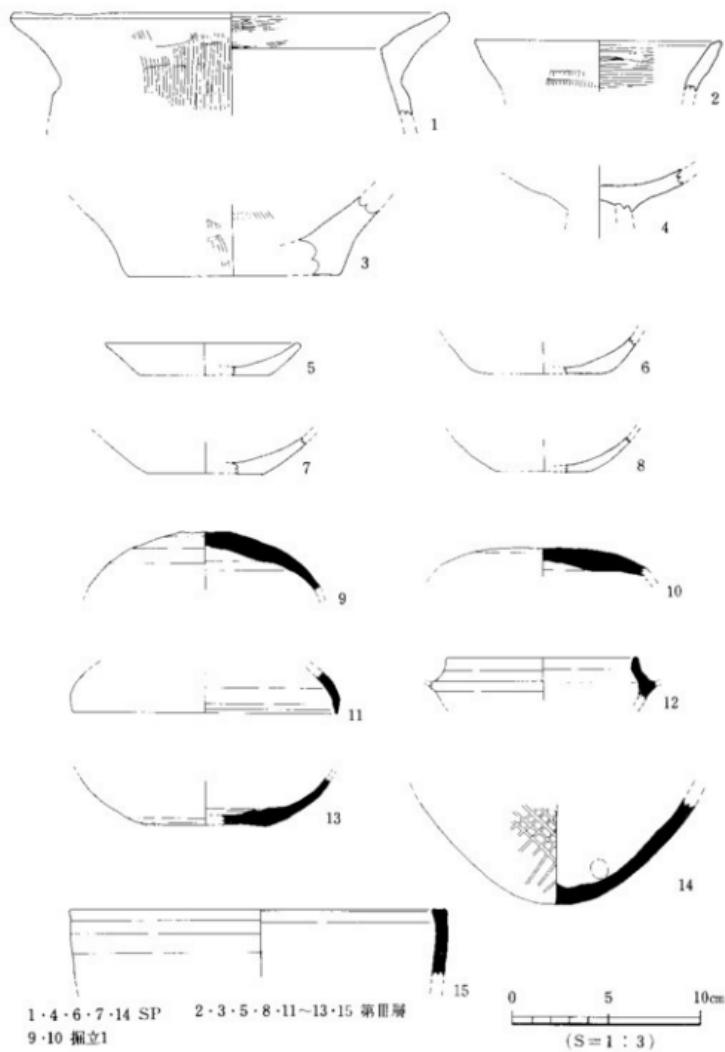


図4 出土遺物実測図

上荊屋遺跡 2次調査地

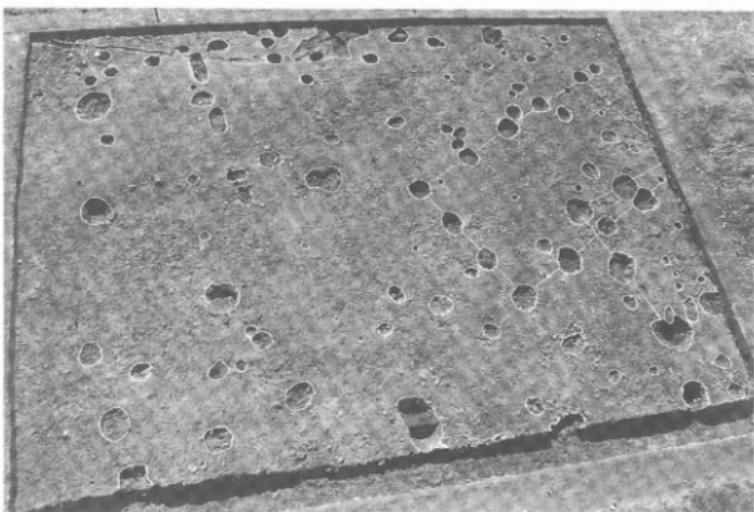


写真1 完掘状況（北より）



写真2 北壁土層（南西より）

ウエノ 上野遺跡

所 在 地 松山市上野町甲756番地 外
期 間 平成5年2月12日～
平成6年3月31日
面 積 2,400m²
組 当 栗田(茂)・大森



図1 調査地位置図

経過 松山市道久谷97号線新設に伴う緊急発掘調査である。遺跡は松山市南部を西流する重信川の左岸1.5km、松山市南方の伊予郡砥部町とほぼ境を接する付近に位置する。調査地南方の三坂峠や上尾峠に水源を発する御坂川・砥部川は北流した後この重信川に注いでいる。遺跡はこれらの河川のうち御坂川左岸の河岸段丘上、標高57mに立地している。

周辺には西野・土壇原・釈迦面山などに代表される弥生時代の遺跡群、大下田・釈迦面山・古鎌山・八ツ塚等の古墳群、谷田・大下田窯址等の須恵器・磁器窯、その他荏原城・上野城等の中世城跡など、各期の遺跡群が數多く分布する地域である。

遺構・遺物 南北総長200m、東西幅12mの狭長な調査地は、現在水田として利用されており、現況の地表面での標高差は、南北200mの間で0.4m、北部が南部に比べて低くなっているが、地山面での標高差はほとんどみられない。層序は、基本的には近・現代の2枚の水田耕土下に4層に分層される褐色系の粘質土層があり、このうち第7・8層、黒褐色粘質土、暗褐色粘質土に遺物が含まれている。遺構は第8層上面で検出されるが、この第8層は部分的に存在しない地点があり、これらの地点では下層の地山第9層黄褐色シルト層上面で遺構が検出される。調査地は、そのほぼ中央部を東西に走る松山市道久谷38号線によって南北に分断されている。調査は、手順上この市道に分断された南北の地域をさらにそれぞれ2つの区画に分けた合計4区画に設定して行った。区画は北から順に1～4区とし、まず3区から調査を開始、その後1・4・2区の順で実施した。

遺構は、調査区のほぼ全域にわたって検出された水田遺構がその主たるものである。市道以北の総長約100mの部分が1・2区で、うち北方の60mの区画を1区としている。1区で検出された遺構は、水田畦畔、水口、暗渠、土坑、溝である。水田は黒灰色の畦で黒色の水田面を区画されている。このうち、東西方向の1号畦畔には水口と考えられる途切れがあり、この部分のみに石を組んでいる。南側から北側の水田に水を落とすためのものであったものと考えられる。これらの水田区画は現在の水田地割から概ね5°西へ偏し、ほぼ磁北に沿うようなかたちで設定されている。水田耕土中から須恵器・備前擂鉢・土師器鍋等少量の遺物が

出土した。また、1号畦畔の南に平行して沿うようなかたちで石詰めの暗渠が検出された。1区南部の溝SD6からも石が検出されており、水田としては削平されてはいるものの同様の暗渠状の施設であったものと思われる。この調査区ではその他、不整橢円形の土坑が1基検出されており、土師器壺1点の出土をみている。

2区においても水田遺構が検出されたが、その区画方向は1区水田から約20°東へ振れる。このうち、東西方向の3号畦畔はその北面を列石によって補強されている。この列石にも1区1号畦畔と同様に途切れる部分があり、水口として機能していたものと考えられる。その他、南北方向の暗渠状の施設や溝、長楕円形の土坑が検出された。

3・4区は市道以南の長さ約100mの調査区で、そのうち北70mの区間が3区にあたる。明確な水田遺構は検出されなかったが、調査区北半で耕作痕と考えられる歓状の浅い窪みが南西から北東方向に走っているのが検出された。その他、東西方向の2条の溝や、調査区南半で土坑6基と不整形の窪み2基が検出されたが、そのいずれもから遺物の出土はみられなかった。

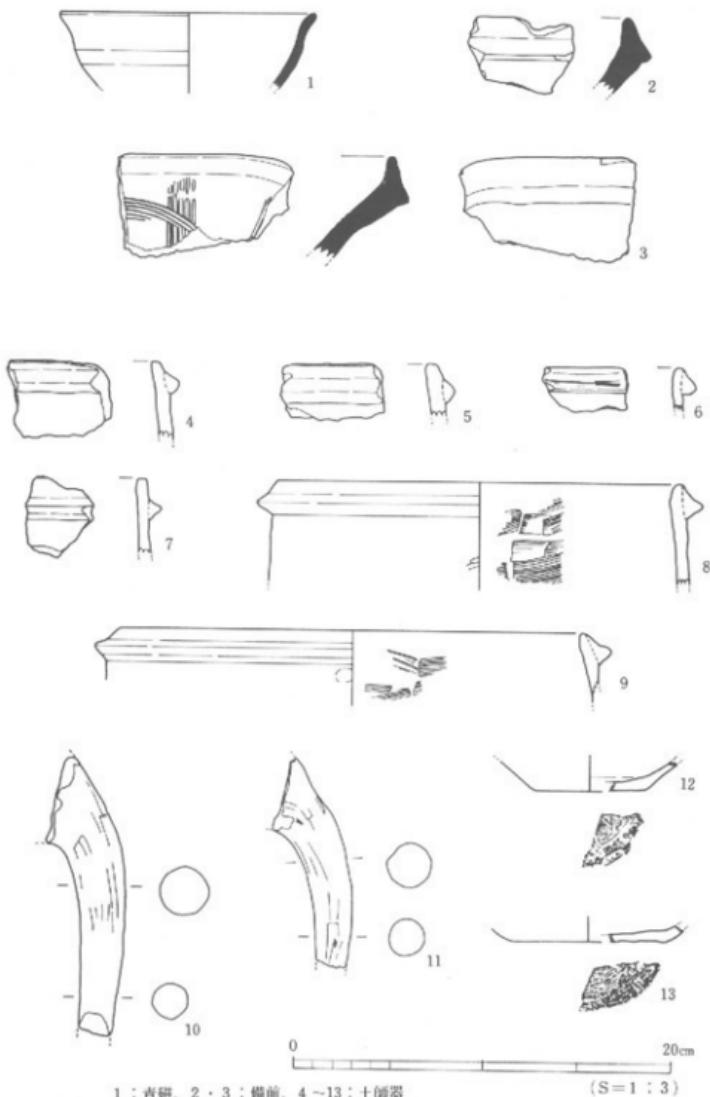
3区の南に隣接する4区では畦畔状遺構2号畦畔と、これを切った状態で杭列を伴った南北方向の溝SD7が検出された。

出土した遺物には、磨製石剣（巻頭図版1参照）や、石鍤をはじめとする石器類、陶碗や壺などの古代の須恵器、中世の土師器鍋・壺類、備前櫛鉢などの陶器類、近世の陶器類などがある。

小結 出土遺物は、周辺の遺跡分布を反映して各期にまたがっているが、水田址調査の常として出土点数はさほど多いものではない。これらの遺物のなかで水田に伴うとみられるものは土師器・陶器などの中世遺物である。土師器壺はすべて回転糸切り、また備前櫛鉢はその口縁部形態から15世紀後半頃の製品であり、これらの水田はこの時期に機能していたものと考えられる。1号・2号畦畔に設けられた水口は、南から北への水配りのためのものであり、基本的には現在の水田の水配りと変わらない。また、石詰暗渠状の施設が検出されているが、これらの暗渠は「はる田」・「ふけ田」と呼ばれる湿田の改良のための排水の機能を果たしていたものと考えられる。

その他、今回の調査で出土した遺物のうち注目されるもののひとつに磨製石剣がある。石材は緑色片岩で、錐の稜は無いに等しく、また闊の割り込みも非常に甘い。遺跡全体を見回しても弥生土器の出土は3区において中期と思われる甕の口縁部細片が1点あるのみで、この石剣の詳細な時期については言及し難いが、この形態からみて前期まで遡ることはあるまい。愛媛県内における磨製石剣の出土30数例のうちのごく僅かの例を除いたほとんどが表探品であり、本例も共伴遺物、遺構を伴わない点で一般資料たり得ないのはやむを得ないが、少なくとも、出土地点・層位だけでも把握されていることは評価されてもよかろう。

上野遺跡



1：青磁、2・3：備前、4～13：土師器
(S=1:3)

図2 水田出土遺物実測図

上野遺跡



写真1 1区の水田（北より）

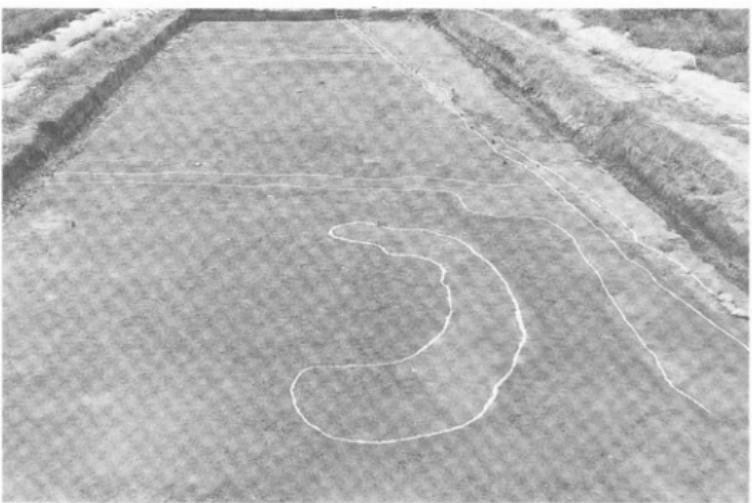


写真2 4区の水田（北より）

ウエノ 上野遺跡 2次調査地

所在地 松山市上野町
甲792・794・795番地
期間 平成5年7月12日～
平成6年3月31日
面積 2,000m²
担当 栗田(茂)・山本



図1 調査地位置図

経過 調査地は松山市南部上野町にあって、同年度に実施された市道久谷97号線に伴う1次調査地の西方120mと非常に近接した地点にあたる。松山市が計画した駐車場造成に伴う緊急発掘調査である。

遺構・遺物 調査地の現況は水田で、現耕土直下で遺構が検出される。検出された遺構は、掘立柱建物7棟、柵列1状、その他の柱穴74基、土坑28基、溝3条、倒木痕跡12基で、土坑のうち10基は墓である。7棟の掘立柱建物(SB1～7)は、その方位を磁北から僅かに東へ偏した方向にとっている。プランには1×2間、1×3(+α)間、2×2間のものがある。各建物の柱穴は直径20～35cmの円ないし楕円形で、深さ8～35cmとかなり削平されてはいるが、いずれにしても比較的小規模な建物群である。

土坑のうち墓と認定された10基(SK12・23～33)は、調査地の西部に集中して検出された。これらの墓のプランは長さ1～1.3m、幅0.7～1.1mの方形もしくは長方形で、深さは深いもので50cm、遺存状況の悪いもので15cm程度であった。良好な遺存状態のものでは、木棺の部材の一部や、木棺痕跡の確認できるものがある。墓からの出土遺物には土師器壺・皿、染付皿、陶器碗、漆器椀、古銭(寛永通寶)、念珠がある。倒木痕跡は12箇所において検出されたが、その倒木方向は図2に矢印で示されている。

小結 検出された遺構の主なものは掘立柱建物遺物群と、木棺を埋葬施設とする墓の一群である。これらの墓からは底部回転糸切りの土師器壺・皿とともに染付皿や陶器碗、漆器椀などを出土しており、17世紀前半から18世紀前半の間に営まれたものと考えられる。掘立柱建物の柱穴からも墓と同様の底部回転糸切りによる土師器細片が出土しているが、器型・法量を比較できるだけの資料ではなく、建物群の時期を特定するには困難が伴う。建物群から陶磁器類の出土がないことから考えると、墓が営まれ始める以前のものである可能性もある。1次調査の水田が15世紀後半、上野城・葦原城が南北朝創建、中世末期廃絶と推定されることなどから、これらの建物も中世末期の頃のものと考えたいが、明確な根拠があるものではなく、今後の周辺部分の調査への課題としておきたい。

上野遺跡 2次調査地

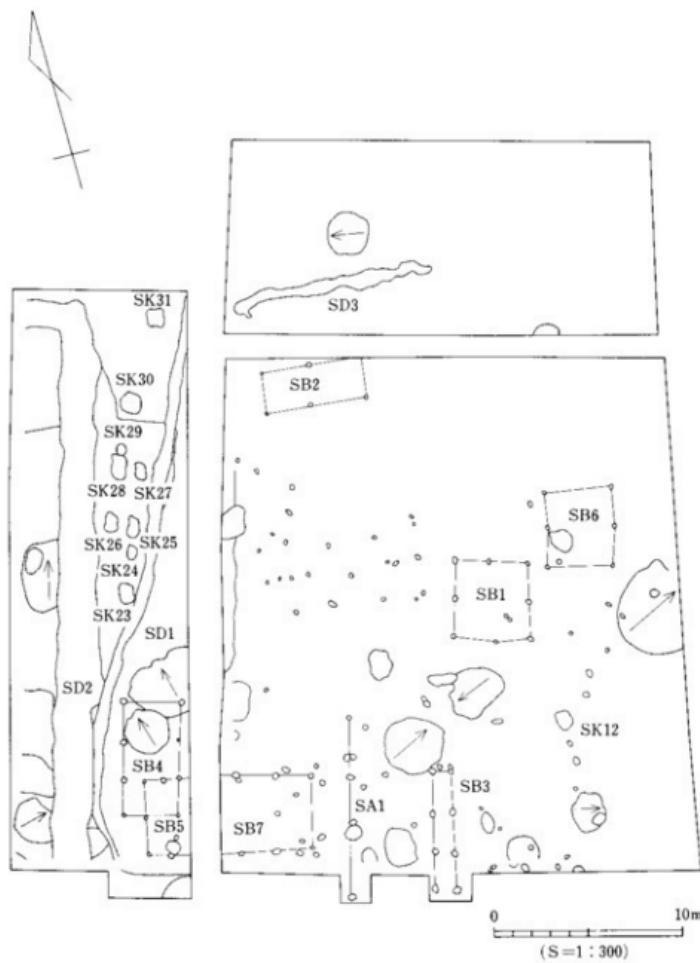


図2 遺構配置図

上野遺跡 2 次調査地



図 3 SK 25平・断面図

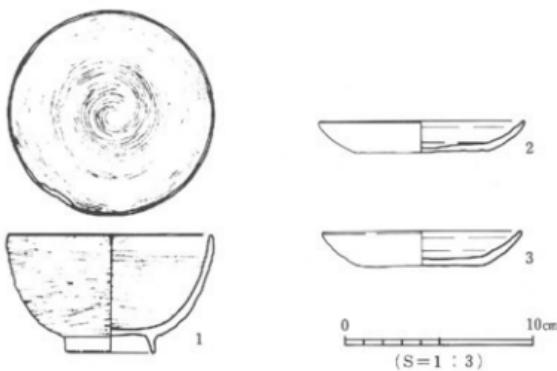


図 4 SK 25出土遺物実測図

上野遺跡 2次調査地

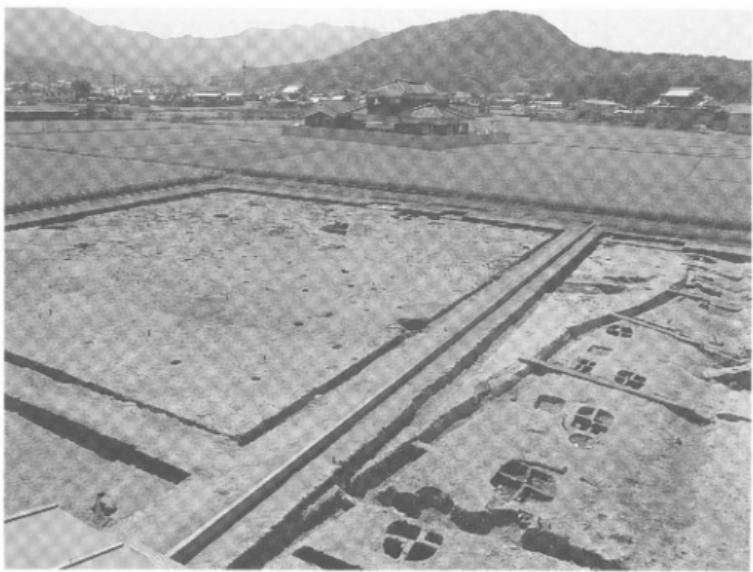


写真1 調査地全景（北西より）

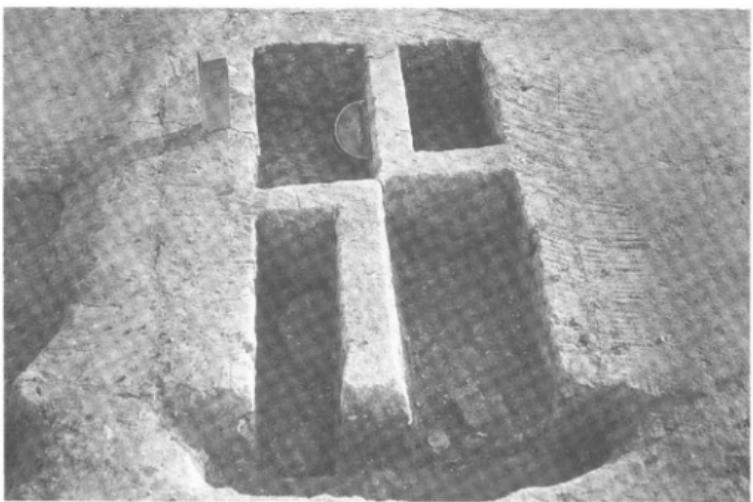


写真2 SK25遺物出土状況（北より）

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例 言

1. 本編は、松山市教育委員会文化教育課・飼松山市生涯学習振興財團・松山市埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
2. 今回は平成5年度（申請番号1号～213号、平成5年4月1日～平成6年3月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成4年度以前の資料については、「松山市文化財調査年報I（昭和60～61年度）」「同年報II（昭和62～63年度）」「同年報III（平成元～2年度）」「同年報IV（平成2～3年度）」「同年報V（平成3～4年度）」を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表及び付録図）は、武正良浩、西原聖二、酒井直哉、後藤公克、白石公信が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に準ずるものである。また、本格調査については平成5年に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図三津浜・松山北部・郡中・松山南部を使用した。
6. 一覧の略記について
 - ①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。
 - ②標高：地表面、（ ）調査区内平均値
 - ③調査目的：公一施主公共団体、私一施主一般。
 - ④調査方法：空白は未調査等

平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(1)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
1	南江戸2丁目685-1	725	13.6	私	試掘			
2	南土居町217	23		私	立会			
3	桑原4丁目13-2他2筆	487	33.9	私	試掘			
4	天山町363番9	285	31.4	私	試掘			
5	北斎院町1072番	1,215	7.8	私	試掘			
6	道後緑台331-3他1筆	629	38.6	私	試掘			
7	古三津3丁目870他	321	6.0	私	試掘			
8	星岡町611番地1	127	28.6	私	試掘			
9	道後今市1067	1,690		私	試掘			担当 県教委
10	緑町1丁目3-13	120	28.9	私	試掘			
11	東川町47番他125筆	54,741		私	踏査			本格調査要
12	平井町甲181番2	498	86.1	私	試掘			
13	平井町甲2169-53	200	62.0	私	試掘			
14	星岡町619-1他6筆	950	28.3	私	試掘			
15	別府町221-2、7	439	6.9	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(2)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
16	平井町1227他2筆	1,890	71.8	私	試掘			
17	北斎院町410-1	611	8.5	私	試掘			
18	下伊台町1173-4	235	149.5	私	試掘			
19	山西町829-3他1筆	168	3.3	私	試掘			
20	辻町231	287	14.3	私	試掘			
21	辻町232	370	13.4	私	試掘			
22	みどりヶ丘300番165	208	7.9	私	試掘			
23	桑原1丁目789-11	448	34.9	私	試掘			
24	道後緑台甲348-3	631	42.1	私	試掘			
25	道後北代9番53号	202	31.0	私	試掘			
26	下伊台町乙193-1	333,458		私	踏査			本格調査要
27	平井町甲1418番地	179	69.8	私	試掘			
28	森松町846番地他1筆	1,966	34.4	公	試掘			土盛り後、着工
29	小坂4丁目403-1他1	353	24.8	私	試掘			
30	星岡町615-1	47	27.4	公	試掘			
31	南土居町	1,920	37.7	公	試掘			
32	祝谷1丁目395-18	173	61.0	私	試掘			
33	北斎院町551番	110	19.0	私	試掘			
34	北斎院町518番1	543	17.3	私	試掘			
35	山西町61-1他6筆	499	12.4	私	試掘			
36	西石井町324-1	110	20.7	私	試掘			
37	谷町225-2	199	12.1	私	試掘			
38	山越町9-9、9-16	204	17.8	私	試掘			
39	久米屋出町1116-1他	647	42.5	私	試掘			
40	朝生田町255、256	193	19.4	私	試掘			
41	福音寺町T13-1	1,280	23.7	私	試掘			
42	畠寺町丙238-103他	464	56.1	私	試掘			
43	南江戸5丁目1489	266	19.1	私	試掘			
44	久米屋出町665-4	331	46.2	私	試掘			
45	平井町72他8筆	2,954	78.4	私	試掘			
46	山越1丁目303番3	266	18.1	私	試掘			
47	石風呂町乙41-14他	9,540	50.0	私	試掘			
48	祝谷5丁目648	207	61.7	私	試掘			
49	南江戸5丁目、6丁目	44,010		公	踏査			本格調査要
50	祝谷2丁目乙635-3	124	50.4	私	試掘			
51	畠寺2丁目456-1	1,157	49.0	私	試掘			
52	畠寺2丁目456-2の一部	155	47.5	私	試掘			
53	南郷町甲435番	922	76.1	私	試掘			
54	北久米町451-8	171	34.8	私	試掘			
55	南土居町236	535	37.4	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(3)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
56	森松町838番地 1	415	35.8	私	試掘			
57	南久米町660番 1	520	40.3	私	試掘			
58	東石井町乙41-17	383		私	試掘			申請取り下げ
59	船ヶ谷町19番 1	142	16.7	私	試掘			
60	道後今市1063番 5	162	32.3	私	試掘			
61	北梅本町乙106-3	245	118.4	私	試掘			
62	南久米町453-9	165	35.3	既済			S56-3にて調査済	
63	山越3丁目811番 7	306	22.4	私	試掘			
64	天山町37番 2他1筆	832	20.8	私	試掘			
65	廣子町7番 2	199	41.9	私	試掘			
66	久万ノ台762番他1筆	317	12.4	私	試掘			
67	山越3丁目768-2	322	20.3	私	試掘			
68	道後北代1298-4	168	32.7	私	試掘			
69	廣子町54-1	293	42.2	私	試掘			
70	東野5丁目甲865-1他	416	51.9	私	試掘			
71	水泥町1006-16他3筆	891	64.3	私	試掘			
72	北久米町882-2他6筆	1,546	32.1	私	試掘	溝・土坑	須磨署・土崎署	本格調査要
73	鷲原2丁目282-1	1,071	17.9	私	試掘			
74	道後喜多町1018番 8	179	34.2	私	試掘			
75	南久米町575-12	138	34.9	既済			S63-81にて調査済	
76	古藤1丁目753-7	270	35.3	私	試掘			
77	末広町786番 2	330	36.7	私	試掘			
78	福音寺町739-4	998	23.1	私	試掘			
79	桑原1丁目809-11	265		私	既済			S62-51にて調査済
80	北梅木町甲3280-19	277	76.5	私	試掘			
81	小坂5丁目315番 7	198	24.1	私	試掘			
82	東野3丁目中710番地	515	58.8	私	試掘			
83	水泥町1006-5	180	64.6	私	試掘			
84	下伊台町1447-1他	1,903	145.9	私	試掘			
85	桑原4丁目12-2他5筆	993		既済				
86	みどりヶ丘300番地	154	7.8	私	試掘			
87	桑原1丁目795-1	581	36.1	私	試掘			
88	東石井町539	433	22.3	私	試掘			
89	久米庭田町1159-1他	948	43.7	私	試掘			
90	谷町甲257	197	30.2	私	試掘			
91	桑原4丁目10番11	356	34.0	私	試掘			
92	久米庭田町1116-14	239		既済			H5-39にて調査済	
93	桑原4丁目19番 1	890	35.8	私	試掘			
94	廣子町39-6	197	42.8	私	試掘			
95	道後緑台1318番 1	175	35.0	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財認証調査一覧

(4)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査日程	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
96	朝美1丁目1319-1	254	14.1	私	試掘			
97	南江戸1丁目494-1他	256	14.8	私	試掘			
98	桑原7丁目451番7	82	33.6	私	試掘			
99	今在家町	1,012		公	未			
100	南江戸5丁目1556番	155	12.6	私	試掘			
101	北斎院町482-1	1,335	7.7	私	試掘			
102	北斎院町349番地	294	13.2	私	試掘			
103	朝生田町230-5	707	19.3	私	試掘			
104	道後今市1073-10他	149	36.6	私	試掘			
105	衣山2丁目493番	614	31.6	私	試掘			
106	久万ノ台1291番地	262	20.0	私	試掘			
107	東石井町302番地	115	21.8	私	試掘			
108	中村2丁目45-3他1筆	376	28.0	私	試掘			
109	道後北代8番24号	131	33.1	私	試掘			
110	鷹子町34番3	288	42.9	私	試掘			
111	船ヶ谷町323-1	872	8.3	私	試掘			
112	道後柄又1146-1他	370	28.1	私	試掘			
113	天山町273他	17,480	21.3	私	試掘			
114	南久米町401番5	281	37.1	私	試掘			
115	山越1丁目甲274-10	170	18.1	私	試掘			
116	桑原1丁目9-27	899		私	未			J15-194と重複
117	朝生田町345他2筆	888	18.3	私	試掘			
118	平井町甲2118-2	142		私	完			無許可で建築済
119	久米屋町899-4	347	45.0	私	試掘			
120	来住町856番17	259	38.9	私	試削	包含層	弥生・土師器	本格調査要
121	平井町甲1012	284	77.5	私	試掘			
122	来住町232番地	1,345	41.3	私	試掘			
123	橋角町甲902番地1	473	25.1	私	試掘			
124	平井町	553	77.7	公	試掘			
125	清水町1丁目9-5	101	23.0	私	試掘			
126	道後今市1043番3	386	32.8	私	試掘			
127	朝日ヶ丘1丁目1413-5	991	23.5	私	試削			
128	衣山4丁目150番4	234	69.8	私	試掘			
129	古三津4丁目63番	241		私	踏査			
130	東野5丁目898-16	279	64.8	私	試掘			
131	平井町(上刈原)	1,409	74.0	公	試掘			
132	平井町(今吉)	288	74.0	公	試掘			
133	平井町1973~1982	242		公	立会			
134	久米津田町36-3	176	47.0	公	試掘			
135	桑原6丁目758-3の内	178	33.6	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(5)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
136	南久米町410-2	368	36.9	私	試掘			
137	木屋町2丁目6-29他	167	21.8	私	試掘			
138	椎原町甲639番1	1,033	47.3	私	試掘			
139	鷹子町582-4	245	48.1	私	試掘			
140	南江戸5丁目	204	19.0	公	試掘			
141	南江戸4丁目1-1	750		公	未			
142	平井町1158-5	331	80.7	私	試掘			
143	南久米町7-9	228	42.1	私	試掘			
144	道後今市1056-1他6筆	789	31.3	私	試掘			
145	桑原6丁目708-7他	348	35.5	私	試掘			
146	南久米町631-1	600	40.2	私	試掘	柱穴他		本格調査要
147	山越1丁目294番1他	1,297	19.0	私	試掘			
148	南江戸5丁目1438-1	217	20.9	私	試掘			
149	南江戸5丁目1437他	621	21.1	私	試掘			
150	南江戸5丁目1436	132	20.6	私	試掘			
151	南江戸5丁目1462-2	181	21.1	私	試掘			
152	北久米町869他2筆	3,218	31.1	私	試掘	包含層	土器等	本格調査要
153	鷹子町47-14他1筆	204		私				H4-105にて調査済
154	桑原6丁目6-30	232	33.6	私	試掘			
155	平井町1383-2	430	68.8	私	試掘			
156	南久米町680	585	40.2	私	試掘			
157	平井町甲2165番19	165	60.2	私	試掘			
158	北斎院町422番1他6筆	885	80.6	私	試掘			
159	久米窪町1172-1他	114	42.5	私	試掘			
160	東野4丁目560-2他	520		私	未			
161-1	平井町乙9-2他1筆	309		私	未			
161-2	平井町乙32-2	198		私	未			
161-3	鷹子町1132-1	300		私	未			
162	小坂5丁目332番7他	999	23.7	私	試掘			
163	南梅本町乙184番3	181	93.7	私	試掘			
164	朝生田町262	698	19.1	私	試掘			
165	谷谷5丁目709番1他1筆	818	39.1	私	試掘			
166	桑原4丁目410番3	343	40.2	私	試掘	古墳周溝	須磨器・土器等	本格調査要
167	南土井町428番地	283	35.5	公	試掘			
168	水沢町333-6	86		私	未			
169	南江戸4丁目1247-1	323	10.7	私	試掘			
170	山越1丁目328-3他9筆	1,500	18.5	私	試掘			
171	平井町706番6	499	74.5	私	試掘			
172	森松町888番地他	100	33.2	公	試掘			
173	北斎院町289-5他3筆	384	9.5	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(6)

No	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺 物	備 考
174	桜松5丁目120番地	415	28.4	私	試掘			
175	森松町外、南高井外	4,200		公	未			
176	久米塙町1164-3他	595	42.4	私	試掘			
177	福音寺町719-3他1筆	322	23.1	私	試掘			
178	中村1丁目314-5	162	28.6	私	試掘			
179	今在家町96-1、2	770	32.1	私	試掘			
180	博味2丁目61番、62番	141	39.9	私	試掘			
181	平井町甲731番4	298	76.2	私	試掘			
182	北久米町583番地	986	32.9	私	試掘			
183	小坂4丁目3番14	148	25.7	私	試掘			
184	西石井町53-1他4筆	1,394	21.3	私	試掘			
185	朝生田町495-1他	665	18.1	私	試掘			
186	平井町甲686番5	311	74.7	私	試掘			
187	南江戸5丁目1-1	846	13.0	私	試掘			
188	南江戸4丁目1099	1,267	13.0	私	試掘			
189	北斎院町288番1	418	9.3	私	試掘			
190	谷町甲219-6他	165		私	既済		H1-143にて試掘済	
191	桑原5丁目681番1他	362	36.4	私	試掘			
192	南土居町313番1他	261	37.6	私	試掘			
193	祝谷2丁目263番7	207	47.1	私	試掘			
194	桑原1丁目987番1他	858	38.5	私	試掘			
195	北斎院町中津438番3	826	7.6	私	試掘			
196	安城寺町205-3	251	8.6	私	試掘			
197	北久米町527-3	199	31.8	私	試掘			
198	太山寺町乙677-1他	2,190		公	未			
199	北梅木町甲695他	900	149.0	公	試掘		須恵器・石器	本格調査要
200	拓川町2-11	461	19.8	私	試掘			
201	福音寺町716番地	397		私	未			
202	鹿子町93番1	103	42.7	私	試掘			
203	東方町中1301番6	264	55.9	私	試掘			
204	农山3丁目482	297	34.9	私	試掘			
205	古三津5丁目552-1他	868		私	既済		S62-109にて試掘済	
206	上野町乙95-3、95-4	495	61.4	私	試掘			
207	桑原1丁目784-3	265	35.7	私	試掘			
208	桑原6丁目708番3	166	35.4	私	試掘			
209	北斎院町436番3他	347	8.4	私	試掘			
210	東本町1丁目102-5	162	32.9	私	試掘			
211	朝生田町223-1他	2,079	19.2	私	試掘			
212	星岡町339番1他3筆	1,091	24.5	私	試掘			
213	南江戸4丁目941-5	235	12.9	私	試掘			

平成5年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代
252	古廻道跡10次調査地	南江戸4丁目1-1	緊急	古墳
253	辻町遺跡2次調査地	南江戸5丁目729番、730番	緊急	古墳～中世
254	久米高畠遺跡22次調査地	南久米町770-1、771	回補	弥生～古代
255	柳味四反地遺跡4次調査地	柳味4丁目216	回補	弥生～中世
256	上野遺跡2次調査地	上野町甲792、794、795	緊急	近世
257	枝松遺跡4次調査地	枝松町外	緊急	弥生～中世
258	東本遺跡4次調査地	東本町外	緊急	旧石器・弥生～中世
259	太山寺経田遺跡	太山寺町甲1459他	緊急	古墳～中世
260	若草町遺跡3次調査地	若草町8番地2の一部、他1筆	緊急	弥生～近世
261	開遺跡2次調査地	南土居町179-1	回補	古墳～古代
262	来往跡22次調査地	来往町622番地、644番地	学術	古墳～古代
263	葉佐池古墳	北梅本町2455	回補	古墳
264	北久米淨蓮寺遺跡4次調査地	北久米町882-2他6筆	緊急	古墳～中世
265	上荷屋遺跡2次調査地	平井町甲980-2	回補	弥生～中世

主な遺構、遺物等	対象面積(m ²)	層外調査期間	No
水田、旧河川、土師、黒色土器	345	H 5. 4. 1～H 5. 5. 29	252
祭祀遺構、竪穴式住居、弥生、土師、須恵	2,168	H 5. 4. 12～H 5. 8. 6	253
樹列、掘立柱建物跡、土坑、溝、弥生、土師、須恵	1,945	H 5. 7. 1～H 5. 10. 30	254
竪穴式住居、掘立柱建物跡、土坑、溝	230	H 5. 7. 8～H 5. 8. 31	255
掘立柱建物跡、土坑墓、須恵器、土師器	2,000	H 5. 7. 12～H 5. 10. 8	256
掘立柱建物跡、溝、土坑、須恵、土師	5,600	H 5. 10. 1～H 5. 11. 30	257
竪穴式住居、溝、土坑、掘立柱建物跡、弥生、土師	12,000	H 5. 10. 1～H 6. 7. 31	258
竪穴式住居、溝、石列塗構	800	H 5. 10. 4～H 5. 11. 9	259
周溝墓、壺棺墓、弥生、土師	2,218	H 5. 10. 25～H 6. 3. 31	260
竪穴式住居、掘立柱建物跡、須恵、土師	498	H 5. 11. 1～H 5. 12. 27	261
掘立柱建物跡、土坑	627	H 5. 11. 15～H 6. 3. 31	262
横穴式石室、木棺、須恵		H 5. 11. 15～調査中	263
竪穴住居址、掘立柱建物跡、土坑、溝、土師、須恵	1,546	H 5. 11. 24～H 6. 3. 19	264
掘立柱建物跡、溝、柱穴、土師、須恵	493	H 6. 1. 5～H 6. 2. 28	265

出土遺物整理事業・報告書作成事業

遺物に関する保存処理事業

担当：池田 学

財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター内には埋蔵文化財保存処理室が置かれており、各遺跡調査で出土した遺物の中で木製品・鉄製品など保存処理が必要な遺物が処理室に運ばれる。

現在、PEG含浸処理機械で含浸処理を行っているのは、前年度から継続分であるため、今年度出土の木製品は、水洗後、水槽の中へまたはエアーシーリングシール機で真空密封して仮保存している。——来住庵寺15次調査、宮前川三本柳遺跡、松山城三之丸——

古照遺跡10次調査出土の籠製品や上野遺跡2次調査出土の漆器は脆弱なため、現場で遺構と共に薬品で梱包して持ち帰り、解体し仮保存を行っている。

鉄製品などは、処理済みの製品については乾燥率のデータを計測し、未処理の製品は、まず表面をエアーブラシによって土鏽を落とし、頑強な鉄鏽についてはミニターグライダーで削り落とす。小型の鉄製品はデシケーターで薬品減圧処理を行い、大型品は減圧含浸処理機で含浸率を計測しながら二度または三度繰り返し処理を行っている。

上野遺跡2次調査から出土した貨銭については、アルコール漬けや熱風循環式乾燥機に入れて乾燥させ、粉末噴射エアブラシで表面の錆などを軽く落とし、全自動電子乾燥機で保存している。

報告書刊行に伴う整理作業

担当：松村 淳

当センターにおいて行われる整理作業には、大きくわけて2通りある。ひとつは、現場調査に併行して行われ、可及的速やかな遺跡情報の公開を図るものであり、これについてはまだ充分とはいえないまでも、近年着実に実績を挙げている。

他方、20余年わたる発掘調査事業のなかで充分な対応がとれず、いわば積み残された遺物・記録類が山積みしていることも事実である。これらの情報についてもできるだけ早い時期の公開が急務であり、また資料の散逸等不測の事態を招かないためにも計画的な整理作業が実施されなければならない。このような整理作業に関する年次計画にもとづき、平成4・5年度は以下の8遺跡の図面、および遺物の整理作業を実施した。なお、その成果の一部は5年度刊行の報告書『和気・堀江の遺跡』に所収されている。

平成4・5年度整理実績：座拝坂遺跡／金毘羅山遺跡／松山総合公園関連遺跡—朝日谷1号墳・客谷B地区古墳群・大峰ヶ台遺跡—／朝美澤遺跡／福音寺川附遺跡／南久米片廻り遺跡
2次調査

平成五年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図



平成 5 年度
啓蒙普及事業

平成5年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究及び資料の整理・保存・収蔵を行っており、また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに、調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものである。

この考古館は、研究者のための研究機関としてだけではなく、一般市民や観光客が気軽に憩いの場として利用でき、児童生徒の課外学習の場としての役割をも担っている。そのため考古館では、発掘調査と一連の流れで展示、教育普及、広報・出版、収集・保管活動を行っている。

1. 展示活動

展示活動としては、常設展・特別展・企画展・発掘速報展・収蔵品展などからなり、常設展以外は、目的に応じて期間を限り随時開催している。これらの展示会を開催することにより、常設展を補完したり、また最新の調査成果を導入することによって、観覧者を飽きさせない展示を心がけている。

①常設展

常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明することを基本コンセプトとしている。また「見る」「聞く」といった静的な展示だけではなく、「触れる」「考える」という動的で、かつ立体的な展示を心がけている。展示室には、松山平野で出土した考古資料約8,200点を系統的に展示している。

②特別展

特別展は、ひとつのテーマのもとに県内外から資料を借用し、一定期間内で展示を行うものである。平成5年度は、昭和47年に発掘調査が開始され、大規模な壙が確認された古墳遺跡をテーマにとりあげ、「古墳遺跡とその時代～遺跡発見20年を経過して～」と題して開催した。

③企画展

企画展は、地域を限定して松山市内における地域色を探ろうというものである。平成5年度は「古代の久米～古墳時代における集落と墓の関係を探る～」と題して、久米地域一特に伊予三山（天山・星ノ岡・東山）周辺に所在する遺跡にスポットを当て、開催した。

④発掘速報展

発掘速報展は、相次いで発見される重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また年度



写真1 環状乳五神五獸鏡
(天山神社北古墳)

ごとに主要な遺跡・遺物を写真やイラストを交えながら紹介するものである。平成5年度は前年度に発掘調査された遺跡を紹介する「むかし・昔のまつやまを掘る」を開催した。

⑤発掘写真展

発掘写真展は、広く一般市民に埋蔵文化財に目を向けてもらうため、松山市庁舎本館1階ロビーに場所を移し、遺跡・遺物の写真を展示するものである。前年度に発掘調査された遺跡を紹介する「むかし・昔のまつやまを掘る」と、久米郡衙ではないかと推定され話題になった「久米高畠遺跡22次調査」の発掘写真展を開催した。

⑥収蔵品展

収蔵品展は、館内に収蔵している資料を紹介するものである。これまでに発掘調査によって出土した資料のほか、新たに寄贈・寄託された資料を展示することもある。

⑦夏休み体験学習セミナー作品展

夏休み体験学習セミナー作品展は、夏休み期間中に小学6年生を対象に行った体験学習セミナーで製作した作品を展示するものである。平成5年度は、「小学生が作った！描いた！土器作品展」と題して開催した。



写真2 発掘速報展
「むかし・昔のまつやまを掘る」

テ　ー　マ	会　期	会　場	入館者数
発掘速報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成5年4月24日(土) ～5月23日(日)	特 別 展 示 室	2,649人
発掘写真展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成5年6月10日(木) ～6月30日(木)	市 庁 舎 本 館 1 F ロ ビ ー	——
夏休み体験学習セミナー作品展 「小学生が作った！描いた！土器作品展」	平成5年8月10日(火) ～8月29日(日)	特 別 展 示 室	708人
特別展 「古照遺跡とその時代 ～遺跡発見20年を経過して～」	平成5年10月23日(土) ～11月28日(日)	特 別 展 示 室	2,313人
発掘写真展 「久米高畠遺跡22次調査」	平成6年2月1日(火) ～2月7日(火)	市 庁 舎 本 館 1 F ロ ビ ー	——
企画展 「古代の久米 ～古墳時代における集落と墓の関係を探る～」	平成6年2月19日(土) ～3月21日(日)	特 別 展 示 室	1,540人

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、考古学研究者を対象にした調査・研究会などと、一般市民を対象にした講演会などがある。後者のように広く一般市民に対しても、資料や情報を公開することによって、埋蔵文化財保護の思想をより一層深めてもらうことができる。

①調査・研究会

発掘調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招へいし、助言を頂き、職員の資質の向上を目指している。平成5年度は6人の研究者に招へいの機会を得て、講演をお願いした。
(敬称略)

テ　ー　マ	日　時	会　場	講　師
出土木器の研究方法	平成5年5月25日(火)	講　堂	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター主任研究員 上原 真人
岡山県北房町定北古墳の調査	平成5年6月23日(木)	講　堂	岡山大学助教授 新納 泉
遺体分析による環境農耕復元	平成5年6月28日(火)	講　堂	天理大学附属天理参考館学芸員 金原 正明
テフラ（火山灰）と考古学	平成5年10月27日(木)	講　堂	古墳境研究所 早田 効
弥生時代・古墳時代の鉄器製作 —集落内の鍛冶遺構について—	平成5年11月25日(木)	講　堂	名古屋大学助手 村上 雄通
「青銅鏡」について	平成6年3月14日(月)	講　堂	大分市歴史資料館 高橋 徹

②講演会

前述の特別展・企画展の開催を記念して、合計2回の講演会を開催した。まず特別展記念講演会は、特別展「古照遺跡とその時代～遺跡発見20年を経過して～」の開催にあわせ、4の方々に講演をお願いした。

また企画展記念講演会は、企画展「古代の久米～古墳時代における集落と墓の関係を探る～」の開催にあわせ、天山神社北古墳から出土した環状乳五神五獸鏡について注目されている山口大学の近藤喬一先生に講演をお願いした。



写真3 特別展記念講演会

テ　ー　マ	日　時	会　場	講　師	聴講者数
特別展記念講演会 「発掘調査の歴史と遺跡保存」 『古墳遺跡の発見とその扱い』 『古墳遺跡の発掘調査の歴史的意義』 『近年の古墳遺跡の発掘調査とその歴史的歩道』	平成5年10月23日(日)	講　堂	岐大文化財センター　坪井　詔足 帝塚山短期大学　青山　茂 奈良県立文化財研究所 工業　勝浦 柳井市立生駒学習センター　工藤　義江 柳井文化財センター　栗田　正芳	183人
企画展記念講演会 『西晋の鏡』	平成6年2月26日(日)	講　堂	山口大学人文学部　近藤　義一	192人

(敬称略)

③夏休み体験学習セミナー

夏休み期間中を利用して松山市内の小学6年生を対象に、体験学習セミナーを開催した。これは、子供たちの社会科學習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

平成5年度は「土器を作ろう！土器を描こう！」と題して、土器成形（7月24日）と土器焼成及び写生（8月7日）の2回開講した。子供たちに土器の製作などを通して、古代人の知恵や苦労を学ぼうというものである。



写真4 夏休み体験学習セミナー
「土器を作ろう！土器を描こう！」

テ　ー　マ	日　時	会　場	参加者数
夏休み体験学習セミナー 「土器を作ろう！土器を描こう！」	平成5年7月24日(日) ・ 8月7日(日)	講堂・屋外	36人

④遺跡めぐり

遺跡めぐりは、参加者に地域に所在する埋蔵文化財を身近に感じていただくことを目的としており、春季には松山市内の発掘現場を中心に見学し、次いで秋季には愛媛県東予地域の古墳を中心に見学を行った。



写真5 遺跡めぐり
「むかし・昔のえひめを歩く」
(今治市阿方貝塚にて)

テ　ー　マ	日　時	主な見学先	参加者数
遺跡めぐり 「むかし・昔のまつやまを歩く」	平成5年5月13日(木)	北久米浄蓮寺遺跡 二つ塚古墳 松山大学構内遺跡 古墳遺跡	38人
遺跡めぐり 「むかし・昔のえひめを歩く」	平成5年11月26日(金)	大西町妙見山古墳 今治市阿方貝塚 伊予国分寺跡 西条市考古歴史館 小松町法安寺跡	56人

⑤現場説明会

平成5年度は、葉佐池古墳をはじめとして全国的に注目を浴びた遺跡が多く、それに伴って発掘調査終了時における現場説明会には、数多くの見学者が訪れた。こうした傾向は全国的にみられ、埋蔵文化財に対する関心の大きさを物語っている。



写真6 来住庵寺22次調査現地説明会



写真7 東本遺跡4次調査現地説明会

遺跡名	日 時	内 容	見学者数
北久米淨蓮寺遺跡3次調査	平成5年7月3日(土)	5世紀中葉のカマドを伴う堅穴式住居4棟、7世紀の掘立柱建物20棟など	80人
骨味四反地遺跡4次調査	平成5年10月30日(日)	弥生時代末の堅穴式住居1棟、古墳時代の堅穴式住居4棟など	30人
開遺跡2次調査	平成6年1月10日(日) 1月14日(金)	5世紀末のベッド状造構を伴う堅穴式住居3棟、掘立柱建物3棟など	180人
来住庵寺22次調査	平成6年3月5日(土)	同席状造構内の儀式の場を確認。銅の薄板の塊、金銅製品の破片が出土	80人
北久米淨蓮寺遺跡4次調査	平成6年3月9日(木)	古墳時代から中世にかけての堅穴式住居3棟、掘立柱建物6棟など	60人
葉佐池古墳	平成6年3月10日(木) 3月13日(日)	6世紀後半の未窯掘墳から木棺2基と人骨3体分を確認	2,500人
若草町遺跡3次調査	平成6年3月12日(土)	弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての周溝墓や堅穴式住居1棟など	50人
東本遺跡4次調査	平成6年3月19日(土)	周堤帯を付設する弥生時代末の堅穴式住居1棟、後漢時代の破鏡など	200人

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象とした映画会で、毎週日曜日及び祝祭日の午後1時と3時の2回上映している。上映するビデオの内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。

3. 広報・出版活動

広報・出版活動としては、当館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るために出版物を発刊したり、発掘調査を行った遺跡の記録保存の報告として、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

①発掘調査報告書

報告書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市文化財調査報告書36 和氣・堀江の遺跡	平成5年10月	一般	B5本文 写真図版 96頁 40頁	1,000
松山市文化財調査報告書37 道後城北遺跡群II	平成6年2月	一般	B5本文 写真図版 100頁 25頁	1,000
松山市文化財調査報告書38 古照遺跡—第7次調査	平成6年3月	一般	B5第一分冊 第二分冊本文 写真図版 225頁 50頁 100頁	1,000
松山市文化財調査報告書39 上野遺跡	平成6年3月	一般	B5本文 写真図版 34頁 15頁	1,000
松山市文化財調査報告書40 大峰ヶ台丘陵の遺跡	平成6年3月	一般	B5本文 写真図版 128頁 71頁	1,000
松山市文化財調査報告書41 東山古墳群4・5次調査	平成6年3月	一般	B5本文 写真図版 148頁 30頁	1,000
松山市埋蔵文化財調査年報V (平成4年度)	平成5年10月	一般	B5本文 117頁	1,000

②展示会関係出版物

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘速報展 案内状	平成5年4月	一般	ハガキ	800
遺跡めぐり(1)パンフレット	平成5年5月	参加者	B4・24頁	40
夏休み体験学習セミナー パンフレット	平成5年7月	参加者	B5・12頁	100
特別展 図録	平成5年10月	一般	B5・28頁	500
特別展 ポスター	平成5年10月	一般	B2	500
特別展 リーフレット	平成5年10月	一般	B5	5,000
特別展記念講演会 レジメ	平成5年10月	聴講者	B4・16頁	200
遺跡めぐり(2)パンフレット	平成5年11月	参加者	B4・7頁	100
企画展 リーフレット	平成6年2月	一般	B5	5,000
企画展記念講演会 レジメ	平成6年2月	聴講者	B4・5頁	200

4. 収集・保管活動

開館以来、一般の篤志家から考古資料及び関連の資料の寄贈・寄託を受けている。それらの中から一定期間、常設展示室の一角で順次展示している。ただし、他機関などから寄贈された一般図書は割愛した。

寄 贈 資 料 名	点 数	出 土 地	備 考
弥生土器 (複合口縁壺) (鉢) (高杯) (その他)	32 (1) (1) (1) (2) (2)	松山市安城寺角田	森田頬光氏寄贈
須恵器 土師器	1 1		
青銅鏡 (方格規矩鏡) (捩文鏡) (五鈴鏡)	3 (1) (1) (1)	松山市今吉 久米大池東北古墳 松山市瀬子 柳ヶ谷古墳 松山市平井 空田池中島古墳	竹本定義氏寄贈



写真8 方格規矩鏡（径約11.1cm）



写真9 捣文鏡（径約7.0cm）



写真10 五鈴鏡（径約9.4cm）

5. 施設の利用

当センターは、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催のシンポジウムや研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

(1) シンポジウム

大 会 名	日 時	会 場	内 容
古代学協会 中国・四国支部合同大会 (四国支部第7回大会) 「瀬戸内・海の物流 ～西から東へ・東から西へ～」	平成5年6月26日(土) ・27日(日)	講 堂	1. サブカイド石材の流動 2. 渔業文化と海域 3. 瀬戸内海を出る土器、入る土器 4. 船橋土器の復元 5. 島の祭りと船路

(2) 瀬戸内海考古学研究会

テ ー マ	日 時	会 場	講 師
「愛媛県における土器製塙の様相 ～芸予諸島を中心として～」	平成5年5月22日(土)	講 堂	愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査員 桑田 昌児
「北久米淨蓮寺遺跡3次調査地 調査成果の検討」	平成5年7月31日(土)	講 堂	高松市生涯学者館附属埋蔵文化財 センター調査員 橋本 雄一
「西瀬戸内の有舌尖頭器 ～愛媛県内にみるその動向～」	平成5年9月25日(土)	講 堂	愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査員 多田 仁
「初期須恵器の系譜」	平成5年10月16日(土)	講 堂	高松市生涯学者館附属埋蔵文化財 センター調査員 橋本 雄一
「弥生時代前期の墓制I」	平成5年11月27日(土)	講 堂	愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査員 真鍋 明文
「弥生時代前期の墓制II」	平成5年12月18日(土)	講 堂	フリーディスカッション
「須恵器椀・台付椀の検討」	平成6年1月29日(土)	講 堂	高松市埋蔵文化財センター 調査員 鶴川 智之
「瀬戸内の海人文化の成立 ～瀬戸内の簡文化を理解するために～」	平成6年2月27日(日)	講 堂	愛媛大学法文学部副教授 宮本 一夫
「中世墓の一考察 ～古墳石室再利用の中世墓について～」	平成6年3月26日(土)	講 堂	愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査員 土井 光一郎

6. 資料の貸出

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出品要望に応えるべく、可能な限りの貸出を行っている。

貸出資料名（遺跡名）	点 数	貸出目的（展示期間）	貸 出 先
人形（前川 I 遺跡）	5 点	企画展「折り・のろい・はらい」 に出品するため (平成 5 年 4 月 20 日～平成 5 年 5 月 23 日)	徳島県立博物館
貨泉 （樽味立派遺跡） 有柄式磨製石剣（レプリカ） （松前町出作宝剣田遺跡） 装飾台付子持壺（溝辺 1 号墳） 子持器台（東山鷺ヶ森 6 号墳） 蓋付子持脚付壺 （御産所櫛現山 1 号墳）	1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点		
盾形埴輪 （鶴ヶ峰遺跡） 大型器台 （益ノ口遺跡） 石劍 （福音寺遺跡） 獸形木製品 （福音寺遺跡） 圭頭大刀 （塚本 1 号墳） 三累環頭 （五郎兵衛谷古墳） 環状乳五神五獸鏡 （天山神社北古墳） 重圓日光鏡 （若草町遺跡） 分銅形土製品 （文京遺跡） （福音小学校構内遺跡） （祝谷六丁場遺跡） （祝谷アイリ遺跡） （道後鷺谷遺跡） 銅鏡 （朝日谷 2 号墳） 鉄劍 （朝日谷 2 号墳）	1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 1 点 2 点 2 点 1 点 10 点 3 点	特別展「古代の島根と四国地方」 に出品するため (平成 5 年 10 月 1 日～11 月 14 日)	島根県立 八雲立つ風土記 の丘資料館
絵画土器「鹿・太陽？」 （祝谷六丁場遺跡） 絵画土器「鹿・植物他」 （文京遺跡 3 次調査） 絵画土器「船」 （梅林高木遺跡 3 次調査） 絵画土器「鹿？」 （吉雲神社遺跡） 絵画土器「竜？太陽？」 （若草町遺跡 1 次調査）	2 点 5 点 1 点 1 点 3 点	特別展「倭人の絵画」に出品す るため (平成 5 年 10 月 19 日～平成 5 年 11 月 23 日)	野洲町立 歴史民俗資料館
「久米詳」線刻土器 （久米高畠遺跡）	1 点	特別展「聖德太子の時代」に 出品するため (平成 5 年 10 月 23 日～11 月 28 日)	奈良県立橿原考古 学研究所附属 博物館
平形鋼劍（清沢遺跡） 細形鋼劍（レプリカ） （土居町西番掛遺跡） 有柄式磨製石劍（レプリカ） （松前町出作宝剣田遺跡） 平形鋼劍（復元品） （祝谷六丁場遺跡）	1 点 1 点 1 点 1 点	埋蔵文化財資料展「阿波を掘る」 に出品するため (平成 6 年 1 月 25 日～2 月 20 日)	徳島市教育委員会

7. 職員研修・会議など

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。これらの催しに積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

研修・会議名(開催地)	日 程	参加者数
全国埋蔵文化財法人連絡協議会第14回総会 (盛岡市)	平成5年6月14・15日	1名
埋蔵文化財発掘技術者専門研修「遺跡測量課程」 (奈良国立文化財研究所)	平成5年9月16日 ～10月15日	1名
埋蔵文化財発掘技術者専門研修「寺院官衙遺跡調査課程」 (奈良国立文化財研究所)	平成5年10月21日 ～11月4日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会 (京都市)	平成5年10月21・22日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議 (広島市)	平成5年11月18・19日	2名
埋蔵文化財発掘技術者特別研修「鉄造遺跡調査課程」 (奈良国立文化財研究所)	平成6年2月3日 ～2月8日	1名

松山市考古館 月別入館者数調べ

平成5年度(平成5年4月1日～6年3月31日)

月	開館日	館数	一般	児童生徒	団体般	団体児童生徒	老人	小中高生等 資料入館者	特別展等 無料入館者	入館者合計	一日平均 入館者
4	25	289	183	133	35	40	813	59	1,552	62	
5	26	359	188	187	29	5	1,511	138	2,408	93	
6	25	157	80	115	0	3	562	0	917	37	
7	27	123	86	255	17	0	167	0	648	24	
8	26	361	359	48	209	36	137	83	1,233	47	
9	24	216	70	120	0	139	99	0	644	27	
10	27	206	72	140	98	219	348	235	1,318	49	
11	23	207	58	690	172	107	297	77	1,608	70	
12	23	125	53	0	0	0	151	0	329	14	
1	21	99	39	29	0	93	134	0	394	19	
2	23	242	74	0	0	9	111	251	687	30	
3	27	379	87	218	103	54	339	158	1,338	50	
計		297	2,763	1,349	1,935	654	705	4,669	1,001	13,076	44

松山市埋蔵文化財調査年報VI

平成6年9月30日 発行

編集 松山市教育委員会
発行 〒790 松山市二番町4丁目7-2
TEL (0899) 48-6605

財團法人 松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター
〒791 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (0899) 23-6363

印刷セキ株式会社
〒790 松山市浜町7丁目7-1
TEL (0899) 45-0111

